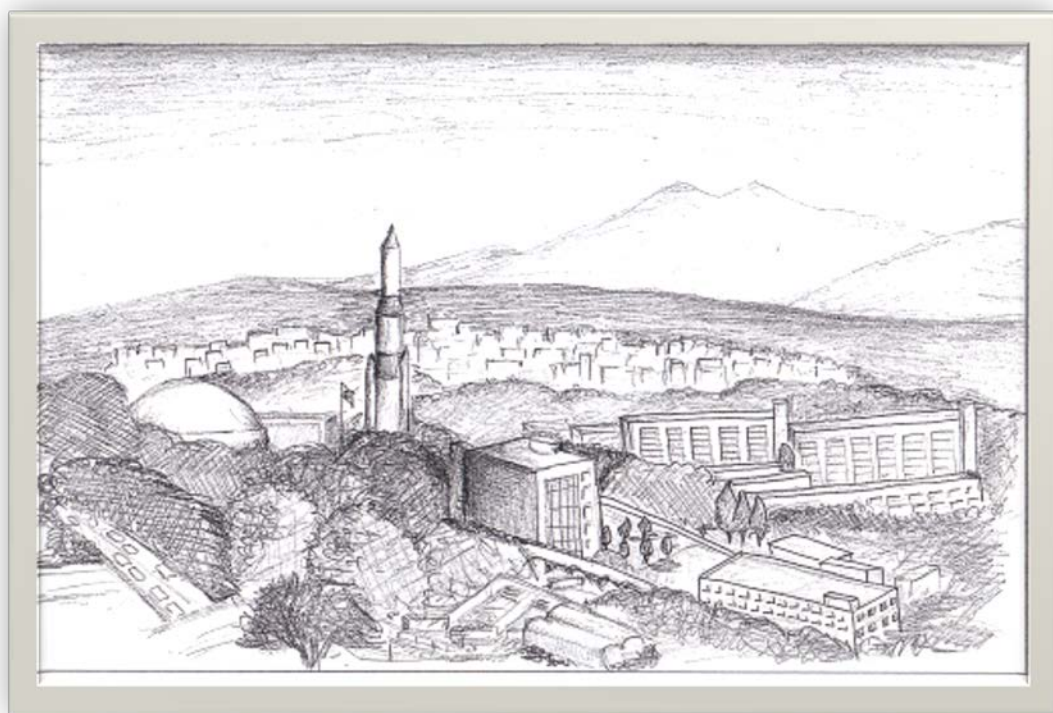
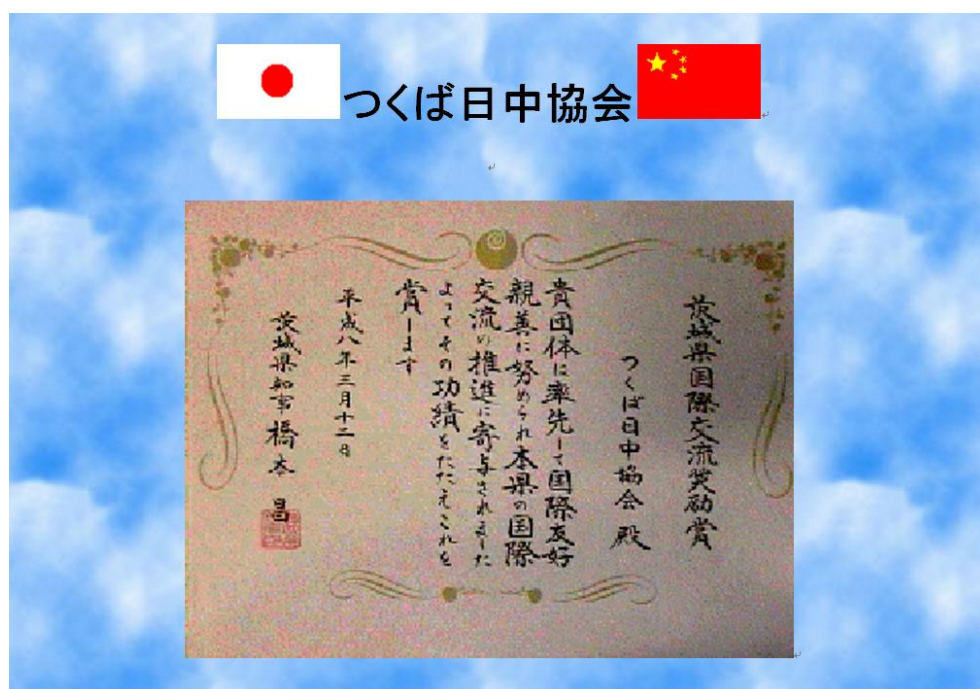


設立 20 周年記念誌



つくば日中協会

二十年の歩み



2013年11月23日

つくば日中協会会則

(抜 粋)

(目 的)

第2条 この会は、つくば研究学園都市を中心に、日中交流に関心を持つ仲間が連携して、日中間の相互理解を深め、日中協力関係の強化と市民レベルでの相互扶助関係の具体的発展に貢献することを目的とする。

(活 動)

第3条 この会は、前条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- (1) 会員間の連絡網を整備し、お互いの連携を強めあうこと。
- (2) 地域・組織と一体化した日中協力関係の推進に協力すること。
- (3) 中国の友人たちが活動しやすい環境づくりに協力すること。
- (4) 友邦団体との交流及び親善を深めあうこと。
- (5) その他この会の目的達成に必要なこと。

(中国語)

(目 标)

第2条 本会的目标是:以筑波研究学园都市为中心、联系关心日中交流的朋友们、加深日中之间的相互理解、为加强日中之间的相互协作关系和发展日中民间的相互扶助关系作贡献。

(活 动)

第3条 本会为实现前条所述的目标、将进行以下的活动。

- (1) 制作会员间的联络网、加强相互间的联系。
- (2) 协助推进地区・组织一体化的日中相互协作关系。
- (3) 协助创造一个为中国友人能顺利地进行各种活动的良好环境。
- (4) 加深与友好团体之间的相互交流和友好关系。
- (5) 其它为达到本会目标所必要的活动。

目 次

会則「会の目的・活動」	・ ・ ・ ・ ・	2
新たな日本と中国の架け橋に	・ ・ ・ ・ ・ つ く ば 市 長 市 原 健 一	・ ・ ・ 4
つくば日中協会の20年を振り返って	・ ・ ・ ・ ・ つくば日中協会会長 不 破 正 宏	・ ・ 5
つくば日中協会設立20周年を祝して	・ ・ ・ ・ ・ 筑波大学中国人留学生学友会会長 何 銀 春	・ ・ 6
つくば日中協会に関わって20年	・ ・ ・ ・ ・ つくば日中協会幹事長 王 学 論	・ ・ 7
中国語講座とつくば日中協会との関わり	・ ・ ・ ・ ・ つくば日中協会事務局長 川久保 忠 通	・ ・ 8
つくば日中協会を通じた私の出会い	・ ・ ・ ・ ・ 筑波大学中国人留学生学友会元会長 杜 国 慶	・ ・ 9
相互理解に基づく中・日交流の推進を	・ ・ ・ ・ ・ 筑波大学中国人留学生学友会元会長 馬 徳 懷	・ ・ 10
つくば日中協会設立20周年にあたって	・ ・ ・ ・ ・ 筑波大学中国人留学生学友会前会長 孟 熙	・ ・ 11
つくば日中協会設立20周年にあたって	・ ・ ・ ・ ・ つくば日中協会中国在住会員 夏 紹 建	・ ・ 12
つくば日中協会の中国語講座について	・ ・ ・ ・ ・ 中国語講座元講師 唐 莉 莉	・ ・ 13
つくば日中協会設立20周年を祝して	・ ・ ・ ・ ・ 中国語講座元講師 範 隸	・ ・ 14
私とつくば日中協会のご縁	・ ・ ・ ・ ・ 中国語講座元講師 楊 豪 傑	・ ・ 15
つくば日中協会設立20周年を祝して	・ ・ ・ ・ ・ 中国語講座元講師 野 澤 有 希	・ ・ 16
つくば日中協会設立20周年を祝して	・ ・ ・ ・ ・ 中国語講座講師 和泉田 恵 美	・ ・ 17
楽しい中国語タイム	・ ・ ・ ・ ・ 中国語講座講師 李 晶	・ ・ 18
つくば日中協会のホームページの作成	・ ・ ・ ・ ・ つくば日中協会元幹事長 杜 明 遠	・ ・ 19
つくば日中協会設立20周年を祝して	・ ・ ・ ・ ・ つくば日中協会元幹事 川 鍋 芳 郎	・ ・ 20
中国語講座の楽しみ	・ ・ ・ ・ ・ 中国語講座受講生 中 井 孝	・ ・ 21
つくば日中協会と私	・ ・ ・ ・ ・ つくば日中協会会員 盛 光 稔	・ ・ 22
つくば日中協会設立20周年に思う	・ ・ ・ ・ ・ つくば日中協会幹事 飯 田 茂	・ ・ 23
つくば日中協会主催の行事を担当して	・ ・ ・ ・ ・ つくば日中協会幹事 川 村 路 子	・ ・ 24
つくば日中協会の活動に参加して	・ ・ ・ ・ ・ つくば日中協会幹事 宮 島 利 博	・ ・ 25
つくば日中協会20年の歩み（年表）	・ ・ ・ ・ ・	26
つくば日中協会20年の記録（写真・資料）	・ ・ ・ ・ ・	35
歴代名誉会長・歴代役員・歴代講師	・ ・ ・ ・ ・	45
あとがき	・ ・ ・ ・ ・	46

新たな日本と中国の架け橋に



つくば市長・つくば日中協会名誉会長

市 原 健 一

「つくば日中協会」が1993年に発足し、本年度で20周年を迎えられますことに心からお祝いを申し上げます。またこの間、留学生を中心に中国の方々との交流を通して、市民レベルで両国親善に大きく貢献されてきました会員の皆様に、あらためて敬意を表します。

昨年は、日中国交正常化の実現から40周年の節目の年でありました。これまで、経済・文化交流や人的交流などが活発に進められてきましたが、地域や市民による地道な友好活動がその礎にあることを忘れてはなりません。つくば日中協会におかれましても、中国語講座をはじめ、筑波山登山、料理講習会や講演会など、毎年多彩な事業に取り組んでこられ、つくばにおける両国の親密度を深めてきたことは極めて意義深いことであります。

現在、つくば市に住む外国籍の皆様は、約130カ国から7,000人を超え、その約4割を中国の方が占めており、研究や勉強などに励まれています。

このような中、つくば市では、言葉や生活習慣が異なる外国人住民の生活をサポートするため、国籍を問わず、多様な文化を背景とするすべての住民が互いに理解し合える地域社会「多文化共生社会」の形成を目指して、国際化推進施策を積極的に進めているところです。

また、つくば市と中国との交流につきましては、2004年に深圳市と友好都市を結び、行政間交流を中心に友好を深め、来年は締結10周年を

迎えようとしています。しかし、昨年夏からの領土問題を巡る両国間の緊張関係から、現在両市の交流においても、様々な影響があります。

中国の言葉に「九仞（きゅうじん）の功を一簣（いっき）に虧（か）く」という格言があります。これまでどんなに苦勞して築いてきた偉業も、最後の努力を怠ればすべてが無に帰する、という言葉です。日中間が厳しい局面にある今だからこそ、先人の築いてきた朋友関係や平和の心を絶やすことなく、深圳市との交流を深めていきたいと考えています。

そしてこのような状況下にあって、つくば市が国際都市として飛躍していくためには、つくば日中協会をはじめとする市民の皆様の協力が必要です。この20周年を機に、会員の皆様の知恵と経験に基づいた活動がさらに展開され、新たな日中友好の懸け橋となりますことを心から期待しております。

結びとなりますが、つくば日中協会のますますの御発展と、会員の皆様の御健勝・御活躍をお祈り申し上げまして、挨拶といたします。

つくば日中協会の20年を振り返って

つくば日中協会会長

不 破 正 宏



光と色にかかわる視覚実験を続けていた一研究者が、つくば日中協会を設立し、20年間も日中友好の活動が続けることになるうとは、私自身にも全く想定外のことでした。

1989年に、中国計量科学研究院から視覚光学の研究者が私の研究室を見学に来られ、研究交流と相互訪問を続けるうちに、家族ぐるみの交流が続きました。朴大埴さんとの幸運な出会いと、また、当時のつくば市長・木村操さんが日中友好条約締結の舞台作りに活躍された功労者であり、当時の副市長・稲葉勝行さんが日中友好交流活動を熱心にご支援下さったという奇遇に、皆さんとともに感謝したいと思います。

1985年のつくば科学万博の後、筑波研究学園都市の環境も整い、全国から集まった研究機関には中国人の研究者も増え、筑波大学中国人留学生も含めて日中双方からの交流の機運が高まり、月例懇談会を開催して、日中双方の会員がお互いにその研究分野や生活文化について紹介しあい、さらに相互理解を深めるには、中国語講座を開講して、中国語や中国文化への理解を深めるのが良いということで、優秀な留学生を講師に迎えて、中国語の学習も始まりました。今年で17回目を迎える中国語講座は、歴代講師に、その時々最高の人材をお迎えして、熱心なご指導をいただくとともに、受講生のみなさんの真摯で根気強い学習ぶりは、当協会の最も誇るべき活動の成果の一つとなっています。

筑波大学中国人留学生学友会との共催で開催してきている中国料理講習会、日本料理講習会、筑波山登山、忘年日中交歓会、日中フォーラム、日本人家庭でのホームパーティ等の活動を通じて、中国の若者たちと交流できることは日本人にとって大変有難いことであるとともに、これからの中国を支えていく若者たちに日本人のありのままの生活を見ていただくことは、将来の日中両国にとって、大きな力になるものと確信を深めています。

中国語講座終了後に、学習仲間と北京や成都を旅行したり、中国語講座の講師を担当いただいた留学生が中国に帰国後、所属の中国の大学を訪問し交流を深めたり、我々の活動は、中国大陸にまで発展していて、将来が楽しみです。

協会設立当初の中国人会員のお子さんたちもそれぞれ成人して、これからの大きな力になっていってくれることでしょう。私たち一人ひとりの力は小さくても、休むことなく続けることによって、大きな力になってきています。

私たちの小さな活動が、日中両国の若者たちに希望の燈明となることを願いながら、私たちの活動に参画してこられた諸兄姉に敬意と感謝を表明するとともに、当協会の活動をこれまでご支援いただいているつくば市長はじめ、関係諸機関のみなさんに心より御礼申し上げます。

つくば日中協会創立20周年を祝して

筑波大学中国人留学生学友会会長
つくば日中協会中国語講座講師

何 銀 春



つくば日中協会創立20周年を迎えるに当たり、筑波大学中国留学生学友会を代表いたしまして、心からお祝い申し上げます。

貴協会が創立した平成5年当時は、明仁天皇と皇后様が初めて中国を訪問された翌年で、日中の友好関係が大きく発展していった時代です。その年も在日中国留学生数が急増していた時代でした。

貴協会が創立以来、日中友好に多くの貢献をされ、今日を迎えたのは、会長をはじめ、役員の皆様及び関係各位の御尽力のたまものと深く敬意を表するとともに、感謝を申し上げる次第です。

昨年は、各地で日中国交正常化40周年を記念した行事と民間交流が企画され、文化、経済、観光などの交流が行われました、しかし、尖閣諸島問題の影響で、一部の活動がキャンセルされてしまった事は、とても残念な出来事でした。そのような複雑な状況下でも、貴協会は例年と同じように、筑波大学中国留学生のために、さまざまな活動を行って下さり、1月のホームパーティー、2月の日本料理講習会、4月の中国料理交流会、10月の筑波登山活動、12月の忘年会など、どの活動でも貴協会の皆様と中国留学生が打ち解けて親しく語り合う様子が見られ

ました。これは、日中民間友好交流の基盤となる一番重要な活動の形式だと思っています。

本年、「つくば日中協会」は設立20周年を迎えられ、大勢の日中関係者がつくばに集まられて、今後の日中関係について関心を持ち、また、日中世代友好を達成するために、共に努力して交流を深める事は、非常に素晴らしい事だと思います。心から皆様の日中友好に対する熱意に尊敬の意を表したいと思います。

そして、日中の友好親善の様々な交流を更に発展させ、新たな段階へ進められるように、留学生の皆で努力し、祈念したいと思います。

私自身も貴協会と筑波大の中国留学生の友好活動を通じて、これからも日中の民間交流活動に微力を尽くしますので、皆様の応援をいただければ幸いです。

つくば日中協会に関わって20年

つくば日中協会幹事長

王 学 論



私がつくば日中協会に関わるようになったのは、1993年10月に京都の大学で留学生生活を終え、つくばの研究所に就職した直後に、同じ研究所に勤めていた不破会長から声を掛けられたのがきっかけでした。当時、不破会長からつくば日中協会設立のことを聞かされた時に、一人の研究者がほんとにこんなことができるのかなと、また、長く続くのかなと正直言って不安に思っていました。しかし、その後私の不安をよそに、つくば日中協会は力強く成長し、今年で設立20周年を迎えることになりました。これは、会員および関係者の皆さんの多大なご支援はもとより、不破会長の温厚で親しみやすい人柄と日中友好交流にかける情熱によるものにほかなりません。

当時、不破会長と私はそれぞれ同じ建物の5階と2階におりました。私は時々会長の部屋に呼び出されて、日本語文章の中国語訳や中国語文章の日本語訳などをよく頼まれました。また、当時インターネットやパソコン環境が今ほど発達していなかったのも、不破会長がよく手書きで行事案内などの文章を作成していました。手書き文章のワープロ清書やお絵描きソフトによる案内地図の作成なども私の主な仕事の一つでした。私は今幹事長という肩書を持っていますが、残念ながら最近仕事が忙しく幹事長らしい仕事をほとんどしていません。今振り返ってみると、日中協会が設立直後の数年間は私にとって最も協会に貢献できた時期なのかも知れません。

地道な日中交流活動を20年間も続けることは情熱だけではできないことではないと思います。

国同士の関係というよりは、「日中の友人同士の交流を大切にする」という設立当初から掲げていた理念に負うところが非常に大きいと強く感じております。日本の他の日中友好団体の場合、政治家が関わっていたり、活動に一過性のものが多かったりする傾向にあるように思います。これに対して、つくば日中協会の場合、中国語講座や料理教室、交流交歓会、ホームステイなどの様々な交流活動を日中の友人たちがボランティアの精神で長期間継続して行ってきました。これらの活動を通じて、会員の間に強い友情が生まれ、つくばを離れた後も交流を続けたり、何らかの形で協会の活動に協力したりする会員が非常に多いのがつくば日中協会の大きな特徴であり、本来あるべき日中交流の姿なのではないでしょうか。

最近、日中両国関係が難しいことに直面しており、政府間交流がかなり停滞しております。このような状況の中で、つくば日中協会の活動がほとんど影響を受けずに続けられていることは協会の活動に携わる人間として非常に嬉しく思うと同時に、民間交流の大切さを改めて痛感させられました。21世紀はアジアの世紀とよく言われますが、中国と日本というアジアの2大国が争っているのは、アジアに未来はないと思います。20年は、人間で言えば成人になったばかりでこれからの活躍が期待されます。20周年を一つの通過点として、今後も「日中の友人同士の交流を大切にする」という理念をモットーにして地道な交流活動を通じて日中両国民の相互理解、友好交流に少しでも貢献できることを願っております。ともに努力しましょう！

中国語講座とつくば日中協会との関わり



つくば日中協会事務局長

川 久 保 忠 通

もう10年以上前になろうか？子供達の学童保育の関係で知り合ったN氏から「川久保さん、中国に興味がありそうだからつくば中央図書館で毎週やっている中国語講座に来ませんか？」と誘われた。当時僕は世界中の出来るだけ多くの国に行きたいという野望に燃えており、その為には英語・中国語・スペイン語をものにせねばと思っていた。英語は下手ながら何とか意思疎通は出来るレベルなのでまずは2,3年かけて中国語を勉強し、その後スペイン語をやろうという計画で早速受講する事にした。杜先生、範先生、和泉田先生、呉先生、楊先生、李先生、そして孟先生と次々に素晴らしい先生方の授業を受けたが、こちらの記憶力や努力が先生方の熱意について行けず、早や月日は10年以上経ったのに未だ中国語のレベルは「ニー・ハオ」で始まるNHKのラジオ講座で4ヶ月経ったくらいのものでしかない。もちろんスペイン語の学習は未だ始められないでいる。

僕を中国語講座に誘ったN氏は早々と止めてしまい、僕は彼の後釜として日中協会の役員にならされてしまった。せっかくやるなら楽しんでもやろうと思い、面白い行事を色々考えた。

僕は外国に行くとやりたい事が二つある。ひとつはその地方にある高い場所に登る事、もうひとつはその土地の普通の人の家の中に入って普通の暮らしを見てみたいという事。多分つくばに来ている中国人留学生も同じ思いでは無い

か？それなら彼らを筑波山に案内し、受講生の各家庭に招待して日常の食事を出し日本の家庭生活を見てもらったらどうだろうか？

幸いにもこの企画は受講生の賛同を得、多くの人達の協力を得てスタートした。筑波山登山の方は当初留学生の参加は10名程度であったが現在は30名となり恒例の人気行事となった。しかし、残念ながら受講生の自宅への招待（ホームパーティー）の方は当初10家族以上の協力が得られたが次第に尻つぼみとなり去年は3家族となってしまった。普通の食事を食べてもらい日常生活を見てもらおうと言う趣旨でもやはりお客さんと呼ぶからには掃除をキッチンとし、御馳走も作らねばならぬという意識が働いて次第におっくうになるからであろう。

他の団体と同様、中国語の受講生も60歳以上のオジサン・オバサンが殆どとなり、役員も高齢化している。このままでは日中協会の活動は尻つぼみとなろう。若い層が入会してバリバリ活動してくれる事を望みたいが、今の日本の現状では若い人達は心理的にも経済的にも余裕がなく無理なのかも知れない。

つくば日中協会を通じた私の出会い

筑波大学中国人留学生学友会元会長
つくば日中協会中国語講座元講師

杜 国 慶



時間が経つのが本当に早い！つくば日中協会も設立20周年を迎えるあたり、おめでたい気持ちで振り返ってみれば、良い思い出で頭がいっぱいになってどこから話を進めて文章を綴ればいいか分からなくなる。思えば、今年で来日19年になる私は、1年先に設立されたつくば日中協会にお世話になり、協会の様々な有意義な活動を通じて成長し、充実した留学生生活を送ることができて、本当に幸運に巡り会えたと感激が重なる。

留学生にとって、各自の専門知識を身に着けるのは当たり前前の責務だが、様々な交流活動に参加するのも、日本文化と日本社会を理解し、更に自国の文化とアイデンティティを見直す良い機会でもある。当時、つくば日中協会は留学生を招聘して、桜を觀賞する花見大会と親睦を深める忘年会を開催し、日本の風物詩を留学生に体験する機会を提供した。交流は一方的な押し付けでなく、双方向で進む。ある花見大会では、谷田部小学校の生徒たちが中国語で中国の民謡「茉莉花」を披露してくれ、その完璧な発音ときれいな歌声は鮮明に記憶に刻まれている。そして、日本の年越しそばと中国の忘年餃子が同じテーブルに現れるのも日中協会ならではの忘年会だ！

大規模な交流活動だけではなく、つくば日中協会は小規模な日中文化交流会も不破会長が定期的に公民館で開催してくれた。ゼミナール形式で日中の文化について交互に発表する機会を設け、学術的に互いの文化について理解を深めた。私も一回、中国の四合院と言う住宅様式について発表させてもらい、図書館で資料を調べて自分自身が四合院と中国の住宅様式に対して再発見の良い機会になった。この交流会には中国に関心を持つ方々が集まり、交流会終了後は

いつもレストランで食事をしながら懇談を続けた。中国文化への関心が中国語を勉強する意欲に発展し、この小さな交流会が後に立ち上げた中国語講座の原型ではないかと推測する。

協会の中国語講座の初代講師を務めさせていただいたことは非常に光栄だと感じられる。当時、私は博士論文を作成する最中で、時間的にも体力的にもバイトに行くことが困難だったが、中国語の講師を担当することで生活費を効率良く稼げたことは、後に博士号を取得する不可欠な条件であった。中国語講座では様々な方々と出会って、日本のいろいろな側面を見ることができた。ある受講生を数回、自分が勉強している筑波大学のキャンパスで見かけたことがあったが、いつもラフな格好をしている彼がいつも「近くで働いている」という。しかし、私の送別会で渡された筑波大学「教授」と書かれた彼の名刺を見たときには本当に驚いた。私に圧力をかけないために、彼はいつも自分の身分を隠してくれた。その優しさが後から分かった。

協会の設立と活動は、不破会長をはじめ、数多くの会員の方々の地道な努力によって実現したものとして理解している。このような国際交流活動に欠かせられない「草の根」活動がボランティア精神に基づくことは、私の留学生活中に学業以外で得た最大の収穫でもある。現在、私もこのようなボランティア精神を活かし、僅かではあるものの、自分が卒業した高校で経済状況が良くない学生を支援することを続けている。協会の方々の努力は、このように留学生や客員研究員などのネットワークを通じて広がっていくと信じている。

つくば日中協会設立20周年、心よりお祝い申し上げます。

(現在 立教大学観光学部観光学科教授)

相互理解に基づく中・日交流の推進を



筑波大学中国人留学生学友会元会長

馬 徳 懷

昨今の中日関係は、中日間の国交が正常化して以来、最も冷たい状態まで冷え込み、小泉政権時代の「政冷経熱」といわれた状況よりも悪く、むしろ「政氷経涼」と言っても過言ではないのが現状です。そして、この問題はこれから先の近い将来までには改善される兆しは見えてこないと思うと、とても寂しく感じられます。

この背景には、もちろん両国間には解決が困難な領土問題があり、中日それぞれの政治家には各自の信念と理念があり、時には、中日関係の悪化を好む意地の悪い人間もいるかもしれません。現在では、両国の一般の国民までお互いに敵視しあい、ネット上で罵倒し合い、嫌中と反日で応酬するような事態が起きており、私は、ここまで悪くならなければいけない理由はどこにもないと思います。なぜなら、それはまず領土などの問題の解決にもならないし、両国民の友好の促進のうえで大きな障害となるからです。このような事態を招来している最大の要因は相手の国と国民に対する誤解があるからであろうと私は思います。そして、そのような誤解を生む最大の要因は市民レベルでの交流が決して十分ではないことが支障になっていると私は思います。

多くの中国人は、日本という国には歴史を無視して、中国を敵視する人間ばかりいると考えているようです。同時に、多くの日本人は、中国という国には野蛮で、食欲で人権を無視する人が多いと思っているかもしれません。しかし、現実をみれば、両方とも間違っているのは明らかです。

私は今から約20年前、私費留学生の身分で来日したのです。当時の何もかも無知な私は、日本人ボランティアの方からアイウエオから始めて日本語を学びながら、大学院の教育を受けました。恩師が希望されたレベルまで成長できてないことを残念に思っていますが、多くの日本人の暖かい人間性、細かい仕事観、ひたむきな性格に影響され、今の私にまで、成長してきているのです。今は周りの同胞に“日本人みたいね(真象日本人)“、と言われることを誇りに思っています。これからも日本人の生き方にならってこれからの人生を送りたいと思っています。

私の周りには来日経験のある人間が数多くいます。彼らが日本を褒める口数は圧倒的に悪口より多いです。彼らは真実の日本と日本人にふれることができたからだとは私は考えます。両国間の人間の行き来がもっとできれば、誤解がもっと減らせるはずです。私が両国間の人々の交流の重要性を強調するのはそのためです。

筑波大学における4年の留學生活の間、不破会長をはじめ「つくば日中協会」の方々と一緒に過ごした日々は忘れ難い思い出に満ちています。お世話になった一人の人間として、感謝と感動の気持ちは、胸中に深く刻まれて懐かしく思い出されます。20歳になった「つくば日中協会」は、日中交流の場所として、日中友好の”懸け橋“として、これからの一層の発展を心からお祈りを申し上げます。そして、皆様の末永い健康と幸せをお祈り申し上げます。

(2013年7月1日、中国 長春にて)

つくば日中協会設立20周年にあたって

筑波大学中国人留学生学友会前会長
中国語講座元講師

孟

熙



つくば日中協会設立20周年に心からお祝い申し上げます。私は2009年につくば日中協会の中国語講座の中級コースを担当しはじめました。初めての授業の風景は今でもはっきり覚えています。とても緊張して、最初は何を話したら良いのか分からなくて、とりあえず自己紹介をしようと話し始めたら、受講生の皆様が温かい眼差しと微笑みをむけてくださったり、うなずいてくださったり、「そうですか」と相づち打ってくださったり、本当に勇気をいただきました。最初の授業が終わった後、当時の受講生の宮島さんと川久保さんからメモをいただきました。そのメモには授業の良かったところと改善点が詳しく書いてありました。それを読んで、「皆様がこんなに真剣に私の授業を聞いてくださっているのだからもっと頑張らないと」と決心しました。あっという間に3年余りが経ちました。今の中国語講座は私にとっては欠かせないものとなっており、楽しみの一つでもあります。授業の時に皆様の中国語に対する情熱、文法に関しての鋭い質問、皆様が人生の先輩として持っていたらっしゃる経験、さらに、旅行に行かれた方から聞く世界中の各国のさまざまな見聞など、本当に週一回だけの授業がいつも待ち遠しかったです。

2011年度と2012年度、私は筑波大学中国人留学生学友会の会長を務めていました。日本料理講習会、中国料理交歓会、日中フォーラム、

筑波山登山、ホームパーティーや忘年会などなど、数多くのイベントを開催していただき、日中民間交流にお骨折りいただく姿勢にいつも感動しています。留学生は日本で暮らしていても、実は生活のほとんどが勉強やアルバイトに追われて、あまり日本人と交流する機会や日本社会を理解する機会がありません。このようなイベントは留学生にとって非常に貴重な体験で、きっと一生忘れない宝物になるでしょう。

2009年から今までの4年間、私は中国語講座の講師として、一人の留学生として、さらに皆様の人生の後輩として、たいへんお世話になりました。この4年間、私は肉親との別れ、結婚、いわゆる人生で最も辛いことと最も幸せなことを経験し、さらに今は小さな命を授かりました。皆様の温かいご支援があったからこそ、私はここまで来ることができて、一人の大人として成長できたのだと思われ、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも皆様と末永くお付き合いさせていただけますようお願い申し上げます。

最後に、改めてつくば日中協会設立20周年、真におめでとうございます。貴協会のご発展と皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

つくば日中協会設立20周年にあたって

中国科学院上海应用物理研究所上海光源教授
中国在住会員



夏 紹 建

值此筑波日中協会成立20周年喜庆之日即将到来之际,特写此信致以诚挚的祝贺!

今天是中国农历八月十五中秋节。今夜的北京,皓月当空。“每逢佳节倍思亲”,此时此刻非常想念在筑波结识的日中协会的朋友们。

1992年6月我应日本国文部省邀请,作为外国人研究员来到著名的科学之城筑波市,在KEK进行为期一年的科学研究,取得了丰硕的科研成果;1995年至2008年期间,我又七次访问KEK做短期合作研究。美丽的筑波市和热情好客的筑波人,给我留下了极其美好的印象。更加宝贵的是,在这里我结识了许多筑波日中协会的成员,与他们一起参加协会的活动,交流中日两国科技发展、文化传统及风土人情;并在北京、上海等地欢迎日本朋友的来访,彼此之间结成深厚的友谊。我的许多中国同事以及我的数位博士研究生,也都与筑波结下了难忘的情怀。

我真诚的希望中日两国人民世代友好,为我们的子孙后代造福。期盼更多的日本朋友访问北京,我会尽地主之情;也一定会再次访问美丽的筑波市,与朋友们团聚。

祝愿中日友谊之树长青、祝福筑波日中协会不断成长壮大!

2013年9月19日中秋夜 敬贺于北京

つくば日中協会が設立20周年を迎えるにあたり、謹んでお祝いを申し上げます。

今日は、旧暦八月十五日で、中秋節です。中国では、「每逢佳节倍思亲」（正月や中秋節などの家族団らんの時になると、普段より一層遠方の親しい人を恋しく思う）という諺がありますが、満月の夜空が美しい今日のこの瞬間、つくばで知り合った日中協会の友人たちを非常に懐

かしく思っております。

私は1992年6月から日本国文部省の招聘により、外国人研究員としてつくばの高エネルギー加速器研究機構(KEK)において1年間の科学研究を行い、沢山の研究成果が得られました。また、その後、1995年から2008年にかけて、計7回KEKを訪問し短期の共同研究を行ってきました。つくばの綺麗な街並みや親切な人々は、美しい思い出として私の心に深く残りました。さらに、つくばで沢山のつくば日中協会の会員と知り合いになり、様々な日中協会の活動に参加できました。これらの活動は、私にとって、日本人の方々と中日両国の科学技術の発展や文化、伝統、風土人情などについて意見を交換し、交流を深める貴重な機会となりました。また、中国の北京や上海において、日本の友人を歓迎することもよくありました。このような相互交流を通じて、私と日本の友人たちとの間で深い友情が生まれました。さらに、私の同僚および数名の博士課程学生もつくばと忘れられない繋がりを持つようになりました。

私は、中日両国の国民は子々孫々に渡って友好的に付き合っていくことを切に願っております。これからもより多くの日本の友人が北京を訪れるのをお待ちしております。また、私も再度つくばを訪問し、日中協会の友人たちと再会することを楽しみにしております。

最後に、中日友好の木が常に青々と生い茂るよう、またつくば日中協会がますますご発展されるよう、心よりお祈り申し上げます。

2013年9月19日 中秋夜 北京にて
(日本語訳: 王学論)

つくば日中協会の中国語講座について

つくば日中協会中国語講座元講師

唐 莉 莉



つくば日中協会の中国語講座を開催したきっかけは、不破会長ご夫婦の中国語の勉強から始まったのです。当時私は「東洋大学牛久高等学校」で非常勤講師として、高校3年生に中国語を教えていたので、不破会長ご夫婦にも毎週中国語を教えることになりました。ほかにも中国語を勉強したい会員の方達もいましたので、役員会で中国語講座の実行可能性を検討し、私に初任講師を依頼され（他にもう一人の講師を推薦し）、つくば日中協会主催の「中国語講座」を開くことになりました。あれからもう十何年も経ちましたが、つくば日中協会の中国語講座は、2コースから5コースにまで拡大しました。

私にとっては、日中協会の中国語講座は、高校での授業とは違いました。ここでの授業には、語学の勉強だけではなく、社会風俗・文化・習慣などについても、常に広い範囲で触れていますので、授業の準備と復習には、ちょっと高校の授業と比べ、時間が掛かりましたが、非常に面白く勉強にもなったのです。一番印象深かったのは、年賀状を書く時に、十二支と十干の組合せの干支（天干地支）に関する事に触れた時のことです。中国古来の知識としては、当時の理工系出身の私には、恥ずかしいことですが、単なる旧暦の表記方法しか知りませんでした。授業中に、干支の読み方を教えながら、これに関して、皆様から様々な見解をお聞きしました。まさか日本人の皆様がこんなに良くご存じとは考えていませんでした。その後、干支に関して、

そして陰陽五行に関する漢方医学（中医）に関連する五行の運用に関わる人体経絡についても、広い意味での勉強をさせられ、大変収穫になりました。つくば日中協会の中国語講座があったからこそ、この分野の勉強が出来て、この知識を利用しながら、日常的に自分の健康管理も出来ました。

中国と日本は違う国でありながら、古くから民間の文化交流があったことも改めて感じました。つくば日中協会のこの良いプラットフォームに、できる限り貢献したいと思っています。私は、現在中国語講座の講師ではなくても、つくば日中協会の役員として、引き続き中国語講座に係わっております。

つくば日中協会の中国語講座は、「日中交流の目的で、中国語を勉強する」との主旨を明確にしてきたからこそ、長年にわたって、皆様の無私の奉仕により、長く続けられてきたと言えるのではないのでしょうか。日中両国にとって、つくば日中協会のような民間的・素朴な交流があってこそ、何千年も続けられると思います。つくば日中協会の20年の歴史を振り返って見れば、民間のパワーがどれ程大きいのかも感じさせられます。

今後も微力ながらも、つくば日中協会での活動が続けたい所存でございます。

つくば日中協会のますますのご隆盛とご発展をお祈り申し上げます。

つくば日中協会の設立20周年を祝して

つくば日中協会中国語講座元講師

範 隸



つくば日中協会の設立20周年記念、誠におめでとうございます。

長年ご発展をしてこられたことは、不破会長を始め、多くの方々のご努力により成し遂げられた偉業です。本当におめでとうございます。私は、かつてひととき日中協会に関わった人間として、嬉しく思うと同時に、つくば日中協会のことを誇りに思います。

時間が経つのが早いものです。主人の仕事の都合でつくばを離れ、高知に来てもう7年が経ちました。3年ぐらいでつくばに戻れると思っておりましたが、そうはなりません。もちろん高知も良い所だと思います。カツオたたきも美味しいし、お野菜もおいしいです。太平洋も仁淀川も近くにあるし、家の目の前は山で、自然がいっぱいです。

でも私にとって、つくばは特別な存在です。

私はつくば在住8年間の大半、日中協会とかわってきました。とくにつくばを離れる前の4～5年間は、私は役員として、また中国語クラスの講師として、つくば日中協会の皆様に大変お世話になりました。毎年、春の留学生との花見大会など、いろいろとイベントがありましたね。年末には、中国語クラスの皆さん、協会関係者の皆様、留学生の皆さんと一緒にゆかりの森で、水餃子などの中華料理や日本料理を作って、100人を超える参加者で、和気藹々、美味しいお料理をいただきながら、日本の歌や中国の歌をみんなで歌ったり、日本語のクイズや中国語のクイズ、ビンゴゲームをやったりして、忘年会を大いに盛り上げましたね。これらこそは草の根の日中友好ですね。今でも時々写真を見て、みなさんのことを思い浮かべ、心が温かくなります。

つくば日中協会の皆様、当時の中国語クラスの皆さん、色んな方々、本当にありがとうございました。私にとって、全てが一生忘れられない良い思い出です。

私、つくばが大好きなのは、クラスのみなさんが私のこと、とっても大事にそして優しく接してくださったからです。

今でも、年末になると、ある方が茨城の特産品であるレンコンを送ってくださいます。そして、電話で、今の日中協会のことや中国語クラスの様子を教えてください。私はとっても嬉しいですが、同時に申し訳なく思います。私は、「もう私のことを忘れても良いですよ」と申し上げたことがあります。その方が言いました、「いえいえ、私は先生のことを忘れませんよ。霞ヶ浦のレンコンを食べて、つくばのことを懐かしく思うでしょう」。その時、私は電話口で涙がこぼれました。また、ある方が高知の故郷に年に一度帰ります。短い滞在のお忙しい中、必ず連絡をくださり、また、ご馳走してくださいます。私の家にも一度来てくださいまして、楽しいひとときを過ごしました。

私は良くクラスのみなさんに次のように言いました。「中国語では私が先生ですが、それ以外ではみなさんが私の人生の先輩であり、師です」。みなさんから私は色々と教わりました。また、みなさんを通して、日本人を知り、日本文化を知り、みなさんの事も、日本の事も、日中協会の事も、大好きになりました。本当に心から感謝しております。最後となりましたが、つくば日中協会のますますのご発展と、皆様が何時までもお元気でいらっしゃいますように、心から願っております。

私とつくば日中協会のご縁

つくば日中協会中国語講座元講師

楊 豪 傑



帰国して三年になりましたが、つくばでの留学生生活を振り返ってみれば、いい思い出がいっぱいありました。

2005年10月、私は期待と憧れの気持ちで知らない異国の町つくばに到着しました。はじめての異国生活でしたから、食事や生活など慣れないところがたくさんありました。一番困ったことは常に感じていた孤独と寂しさでした。筑波大学に中国留学生学友会があることを聞いて参加しました。学友会を通して、いろいろな友達を作りました。

つくば日中協会とのご縁は2005年年末の忘年会から始まったのです。初めて日本の忘年会に参加して、日本人と一緒に餃子を作りました。恥ずかしいことに、実はそれは私の初めての餃子作りでした（中国の南地方の出身ですから、餃子を作ったことはありません）。日本人にいろいろ教わって、餃子の作り方を学びました。協会はその時、ちょうど新しい中国語講座の講師を募集していました。私の専門は言語学ですから、友達の紹介で不破会長と知り合うようになりました。会長との簡単なごあいさつのあと、面接の日付が決まりました。

面接が無事に終わり、私は運良く協会の講師になりました。受講生はみんな中国語や中国文化にたいへん興味を持つ人々でした。彼らはそれぞれ違う理由で中国や中国人が大好きです。彼らとの接触で、中国の言語と文化の奥深さが分かり始めるようになるとともに、中国人としての誇りも感じるようになりました。これは国内にいたとき感じなかったのです。受講生の皆さんから言語や文化に関するおもしろい質問をいろいろ聞かれました。例えば、「了」の使い方にはどんなものがあるか、中国の仏教名山はどこなところか、などでした。授業で即時に答えられない質問があるから、家へ帰ってからいろいろ調べなければなりません。一つの質問のために、言語学専門の同級生と電話で一時間以上議論することもありました。このようにいろいろやる中で、中国語を教えることは、受

講生の皆さんに中国語を教えているだけではなく、自分の母国語に対する見直しでもあると私は思いました。受講生の皆さんの多くは定年になったお年寄りで、中国語を学習するため、よっぽどのがなければ、必ず授業にきました。中国語に対する執着の精神に常に感動させられていました。こんな粘り強さがあったからこそ、若い頃戦後の日本の発展に力を尽くして、現在の豊かな日本があるのではないかと思います。

また、中国の学習以外に、私も協会のいろいろなイベントに参加しました。イベントに参加するに当たり、私はほかの留学生と違って、お客さんではなく、ホストだと思っていました。雨の中での筑波山登山は忘れられません。毎年の忘年会の不破夫人のおもしろいゲームは忘れられません。小野川公民館でみんなで一緒にお寿司を作っていた光景は忘れられません…2008年、私は受講生を率いて、中国の上海・紹興・寧波を訪問しました。今でもときどき思い出したおもしろいエピソードがあります。雨のため、上海の東方明珠テレビ塔の入口の前で、「小心地滑」という立札がありました。ある生徒は「先生、『気をつけて滑れ』とありますが、どのように滑ったらいいですか」と私に聞きました。私は思わず吹き出してしまいました。この言葉になんとこんなあいまいな意味も読み取れるとは思いませんでした。

このようにあっという間に受講生の皆さんと4年間過ごしてきました。良い思い出がいっぱいです。2010年3月、盛大な送別会のあと、私は帰国しました。飛行機の中から遠ざかっていく日本を見下ろしながら、つくばでの生活、中国語講座の皆さんと一緒に過ごしてきた楽しい日々を思い出して、私は思わず涙を流してしまいました。「さようなら、つくば」と。

つくば日中協会創立20周年というおめでたい節目の年に際し、協会のますますのご発展をお祈りするとともに、受講生の皆さんのご健康とご多幸を心から祈念いたします。

（現在 寧波工程学院外国語学院日本語科主任）

つくば日中協会の設立20周年を祝して



つくば日中協会中国語講座元講師

野 澤 有 希

今年、つくば日中協会が設立二十周年を迎えられましたことを皆様方と共に心からお祝いしたいと思います。

会長の不破正宏先生が中心となり、多くの協会の方々の努力の積み重ねの結果、つくば日中協会の盛況が今日に至っていることに深く感銘させられています。

この協会は、日本と中国が二度と交戦しない両国の友好関係を築くために多大な貢献をしてきました。それは、つくば市を中心として、地道な友好活動を通じ、多くの日本人に中国に興味関心を湧かせ、中国が好きになり、また中国のさらなる発展を願い、並々ならぬ情熱を持って、幾多の困難を乗り越え、今日まで築いてこられました。歴史はまだ二十年ですが、中国語講座、中国人の留学生との親睦、中国文化を異国で広げるなど、活発な活動を続けられています。

私は2007年、2008年の二年間、つくば日中協会中国語講座の講師を務めさせていただきました。

今年2013年からまた、引き続き中国語、中国文化を多くの日本人に興味を持たせるために頑張っていきたいと思います。その理由はこの仕事がとても有意義で価値があることなので、日中友好のために一助となるからです。

私が中国語講師を担当した当時、つくば日中

協会の受講生の方々の見識に驚きました。多くの方が中国に対して、深い愛情を持っていて、中国語を習う情熱を感じさせられました。また、中国の新疆、チベット、九寨溝など私も行ったことないところへ旅行したり、登山活動を行ったり、多くの人生経験をされていました。授業はこれらの人生経験の交流も含めまして、とても楽しい時間でした。その意味では、受講生たちは人生の師と友として、私の人生の宝物でした。

今、日中関係が困難な時期に向かっていますが、つくば日中協会の方々と心をつなげて、友好活動を推進して、日本と中国の信頼関係と絆を深めて、「互敬互愛」の未来に向けて、微力ではありますが、全力を傾けて行きたいと思っています。

これからも、つくば日中協会のご発展を心よりお祈りいたします。これをもちまして、二十周年記念の祝辞といたします。

平成25年7月22日

(筑波大学人間総合科学研究科博士後期課程
国学院大学栃木短期大学非常勤講師
東洋大学非常勤講師)

つくば日中協会の設立20周年を祝して

つくば日中協会中国語講座講師

和 泉 田 恵 美



私とつくば日中協会との出会いは、11年前に私と主人の家族が来日した時です。主人のおばあさんは64年間も中国で暮らしましたが、日本人で、つくば市が故郷ですので、つくばに定住する事にしました。その時に幸運なことに不破会長ご夫婦と知合いになり、現在も大変お世話になっております。親に日本語を教えてくださいたり、日本の生活習慣を紹介したり、病院の付き添い……日常生活の隅々まで助けて頂いたお蔭で、今はなに不自由がなく生活できるようになりました。

つくばに来て最初に一番驚いたのは街を歩いている人が少ない、自転車に乗る人もあまり見かけない、でも街はとても綺麗で、あちこちに緑の公園が見られ、道では知らない人でも挨拶してくれて、日本の人々の優しさ、マナーの良さにとても感心しました。今では日本の環境、マナー、サービスの優秀さに慣れてしまっ、中国に帰るたびに、時々不便だなと感じました。日本の事が大好きになりました。

来日してから、私は日本産業技術学院を卒業して、ジオスの中国語講師になって、大学生とか、ビジネスマンなどと楽しく中国語を勉強しました。二年後長女が生まれ、しばらく育児に専念してから、再び日本の企業に就職しました。同時につくば日中協会の中国語講座の講師としてもお世話になり始めました。今年で6年目になり、主に入門と初級の担当になっています。毎週みんなと楽しく中国語を話したり、中国事情を話し合ったり、私にとってとても楽しい時間になっています。受講生たちは、今の日中間の厳しい関係をまったく気にせず、中国に友好的で、中国の文化や社会、人々の暮らしに関心が深く、どなたもとても真剣に勉強しています。中国では、ほとんどの50、60代の方はゆっくり年金生活を送っています。普段はマージャンしたり、公園へ散歩に行ったり、孫と遊んだり、何かを勉強しようなどとは思っていません。日本の皆さんの勤勉さ、生き生きとした生活態

度には感服します。入門コースでは最初の発音のピンインの勉強が最も難しいと言われていますが、みんな自信をもって、大声で、間違っても何回も何回も真剣に練習して、途中で「ああ、のどが乾いちゃった」と笑いながら楽しく勉強しています。

何より、つくば日中協会のいろいろな活動は留学生をはじめ私達にとってとても貴重な交流の機会です。ある日本料理講習会で、初めて日本の巻き寿司、卵焼きの作り方を丁寧に教わりました。今はしっかり実用して、子供のお弁当に出しています。子供同士お互いの親に得意気に見せ合っています。

役員の川村さんは毎年の大晦日の前に、自宅で餅つきしています、私の家族も誘われて、一緒に体験させてもらいました。私達はうきうきして、とても興奮して「出来る出来る」と、自信満々でしたが、実際にやってみると、つきたい所につけない、力の入れ加減も分からない、タイミングも難しいですね。丁寧に頂いた出来立てのおもちは本当においしかったです。

中国にいる両親が日本に来たとき、協会の会員達が親切にしてくださって、お友達になって下さいました。手作りの日本料理をご馳走になったり、また日光旅行にも案内してくれました。日本の自然風景が綺麗で、日本の人々の心はもっと綺麗だと感じたそうです。中国へ戻った両親は、いつも親戚や知合いに日本の良さ、日本のお友達の話をするそうです。

中国語に「礼尚往来」と言う成語（お互いに友好往来する）がありますが、日中間もつとお互いの国の「歴史文化」「風土人情」など、マスコミだけではなく、身をもって知ってもらうために、私達が日中友好の架け橋になれるように頑張っていきたいと思っています。

つくば日中協会のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

楽しい中国語タイム

つくば日中協会中国語講座講師

李 晶



先日の新漢語コースで「长寿的秘密（長寿の秘訣）」という短い文章を受講生の皆さんと一緒に読みました。長生きできた三人のお年寄りが集まって長生きの秘訣という話題でおしゃべりしています。それぞれの秘訣は次のように語っています。

（前略）一位九十六岁的老人说：“饭后百步走，活到九十九。每顿饭后，散散步。”另一位九十八岁的老人说：“有道理。我的经验是每天吃饭不要吃饱，少吃一点就可以了。”最后一位九十九岁的老人说：“少吃一口也容易，也不容易。我能活到九十九，只因老婆长得丑。”说完，三位老人哈哈大笑起来。

この短い文章の中に、「饭后百步走，活到九十九」（食事の後に百歩を歩くと九十九才まで生きられる）」のような慣用句だけではなく、「少吃一口也容易也不容易。我能活到九十九，只因老婆长得丑」という中国式ユーモアも注目していただきたいです。この文を訳すと「食べる量を減らすのが簡単なこととも言えるし、難しいこととも言える。僕が九十九才まで生きられたのが、奥さんが醜いからである」となります。面白いのが「奥さんが醜いからである」の余韻についてどのように解釈するかとのことです。この解釈についての議論が授業で大変盛り上がりました。「妻が醜い、かつ、怠け者であるからご飯をちゃんと作ってくれない」とか、「妻は醜いだけではなく、性格もよくないので、ご飯を作

らない」とか、いろいろありました。絶対正解とは言い切れませんが、「毎日むきあう人が醜くて楽しくない。楽しくない日々が続くと、食べる量も自然に減る。食べる量を減らすことに関しては、僕の場合は簡単で、自然にできたことであり、九十九才まで生きられた」というのが私の中国式解釈です。また、皆さんとの議論を通じて、ジェンダーに関して日中両国の間に差があることも分かりました。

このように、文法や言葉のことに限定しないで議論を一層深く展開できるのが日中協会の中国語講座しかないと思います。そして、講座の皆さんも私も日中両国のことをお互いに教えながら、ふくらませた授業内容を楽しんでいます。知らないうちに、中国語講座の時間は私の楽しみの一つになりました。

中国語講座のような、楽しめる場所やきっかけを作ってくださった日中協会に感謝する気持ちがいっぱいです。これからも講座の皆さんと一緒に楽しい中国語のお時間を過ごしていきたいと思います。そして、皆さんもたくさんの中国人と一緒に楽しい「日中」時間をお過ごし下さい。

つくば日中協会のホームページの作成

つくば日中協会元幹事長

杜 明 遠



今日の WWW は人類の歴史上かつてないスケールで情報交換を可能とした。つくば日中協会も、これを利用し、発足から 3 年目（1996 年 1 月）につくば日中協会のホームページ（HP）を開設した。私はその HP の開設を担当し、その後の変化にも関与しているので、いくつかの思い出を書き残したい。

開設について、私がつくば日中協会の入会から語りたいと思う。私は 1988 年 1 月に筑波大学の留学生として来日した。日本をもっと知りたい、日本人と交流したい気持ちで、来日まもなく、土浦日中友好協会の筑波山登山、東村（現稲敷市に合併）日中友好協会のホームステイなどを参加した。つくばにはこう言う団体があって欲しく、つくば日中協会発足際に、喜んで友だちを誘い合い、発足式に出席し、会員になった。会員登録に役員に協力可能と記入したので、不破会長から役員に勧められ、2 年目に幹事長になった。何か協会に役に立ちたいと思い、HP を開設した。当時、研究所のホームページさえなかった時期でした。つくば日中協会を多くの人に知ってもらうため、見た目よく作った（裏表紙を参照）。当時、HP 編集ソフトがなく、普通のテキストエディターで編集した。また、Windows 環境では中国語コードを使えなく、日本語ページと中国語ページ両方を作り、大変苦労した記憶があった。2 年後、不破会長が自ら一般無料サイトを探し、日中協会の HP をヤフージオシティに移した。さらに、不破会長の努力で、一層充実した。

HP のリニューアルについて、その数年後、時代の流れに連れて、つくば日中協会の HP をよく使えるようにするために、専門知識があるもの

に頼み、表現重視型へリニューアルした（下図に参照）。しかし、近年、ソフトの進化によるリニューアルした HP を使えなくなった。さらに、ソフトの更新や HP の普及により、誰でも HP を作れる時代になり、私がもう一回トライし、現在のページになった。現在の HP は、一般の人を見るページと内部役員だけのページを設け、過去の資料も参考になれるようになった。さらに、携帯電話用のモバイル版もあった。

HP の変遷について、初代目は協会を宣伝する目的で見た目型から、協会の宣伝と中国語講座の実用兼ねて表現重視型へリニューアルした。現在は、協会の実用を重視した実用型に進化したと思う。ページは以下にある。

<https://sites.google.com/site/tsukubarizhongxiehui/>



つくば日中協会 2 代目のホームページ（抜粋）

つくば日中協会設立20周年を祝して

つくば日中協会元幹事

川 鍋

芳 郎



長い間ご無沙汰していたにも関わらず、つくば日中協会会長の不破正宏先生から当協会設立20周年記念式典への招待状と記念誌の原稿依頼の手紙を頂き、感激して自然に涙腺がゆるみました。

確かな記憶ではありませんが、つくば日中協会の創生期を思い出し、若干感想を述べてみたいと思います。

顧みると、私は日中協会の初代幹事長であった大庭治夫先生からつくば日中協会設立総会の案内状を頂き、出席したのが縁で会員になりました。その後、開催された総会で幹事に選ばれてから九年間、多くの皆様と親睦を深めると共に貴重な体験をさせて頂きました。

特に毎年四月に開催された定期総会の後の日中懇親会と十二月に開催する年忘れ交歓会の進行役をさせて頂いた事が強く印象に残っています。

平成六年四月九日の日中懇親会は科学万博記念公園で開かれました。当日はつくば市長と助役の他、二人のミスつくばも参加され、楽しいお花見会になりました。ミスつくばの一人はフィリピン出身の留学生でしたので桜の木の下でフィリピンの舞踊を披露してくれました。私は昭和五十六年から太極拳を学んでおりましたので太極拳を披露しました。この交流会の様子がつくば市報に写真入りで掲載された時は一瞬驚くと同時に幸せを感じました。

平成十三年度の年忘れ日中交歓会は十二月十六日、つくば市ゆかりの森、老人福祉センターホールで盛大に開かれました。当日は、交歓会

に先立ち、福祉センターの調理室で交歓会の準備を兼ねて日中の仲間が協力して蕎麦打ち、餃子作りなどをしました。交歓会は自己紹介から始まりましたが、日本人は中国語で、一方、中国人は日本語で自己紹介をし、大変有意義でした。余興コーナーではビンゴゲームや歌の他ピアノ演奏もあり大変盛り上がりしました。特に杜国慶先生と唐莉莉先生の中国の歌には参加された全員が感動しました。

それから平成十三年十月一日に筑波大学留学生主催の国慶節と中秋節に招待されたこと。毎年数回開かれた中国料理講習会への参加、又、当時、筑波大学の教授をされていた遠藤誉先生の講演会等は忘れません。

ところで私は大変残念でしたが、平成十六年から健康上の理由でつくば日中協会を退会させて頂きましたが、つくば日中協会の必要性和楽しい思い出は生涯忘れることはありません。

さて、中国に「飲水不忘掘井人」（水を飲む時には井戸を掘った人を忘れない）という「ことわざ」がありますが、今後もつくば日中協会の会員一人一人がつくば日中協会設立の原点（市民レベルで日中交流を進展させる）を忘れないだけでなく、人間的にも成長（私は謙虚で創造的な人間）する限り、つくば日中協会はますます発展すると信じています。

最後になりましたが、記念式典と記念誌発行の為に献身的に協力して頂いた皆様に感謝とお礼を申し上げ、お祝いの言葉とさせて頂きます。

中国語講座の楽しみ

つくば日中協会会員・中国語講座受講生

中 井 孝



やや古い分類方法らしいが、世界の言語を形態で大きく分類すると、孤立語（中国語など）、膠着語（日本語など）、屈折語（ラテン語など）の3つに分けられるそうである。

孤立語に分類される中国語を学んでいて、非常に興味深いのは、言葉の、あるいは単語の語順が大切であるという極めて単純なルールである。

漢字は、表意文字であるから、書かれた文面を見ると、なんとなく意味が解ったような錯覚に陥るが、きちんと日本語に訳せといわれると、とたんに確信が持てなくなる。

特に難しいのが「副詞」である。同じ漢字が動詞、前置詞などにも使われることがあるので、副詞は動詞の前におくというルールを熟知しておかないと意味を誤る結果となる。

さらに、いわゆる「補語」は心理的、物理的な感覚と共に大変意味深長な存在である。

さらに、中国語の文法は、極めて単純で合理的である。動詞は主語によって、あるいは時制によって、英語のような変化をしない。まず時制がない。昨日、今日、明日などの言葉が意味的に時制を示す。

古代に製造された青銅器の内側に残されている漢字の文言の内容は、「当時の異民族との契約書であり、各民族によって特定の漢字の読み方は異なるが、その意味は表意文字であるから共

通の理解ができた。」と何かに記載されていたのを記憶している。

勝手な推測に過ぎないが、このとき文法が複雑では、お互いに誤解を生じる可能性が高い。よって、表意文字のメリットを最高に活かした言語として中国語の文法が出来上がったのではないだろうか。

つくば日中協会の中国語講座の講師陣はきわめて優秀である。日本語の堪能なことは言うまでもなく、筑波大学で博士論文などを著作中の先生方から中国語を学べるのは、この上もなく幸いである。

言葉は生き物であるから、なんと言ってもそのニュアンスが大切である。小生が若かりし頃、有名な英語の辞書に記載されていた単語を使って話したところ、その単語は16、17世紀のシェクスピア時代のものであると、英国人に大笑いされたことがある。以来、言葉のニュアンスに注意を払い活用辞典などを読み、できるだけ新しい辞書を使うように心がけたのはいうまでもない。中国語の学習でも、このニュアンスが大切だと思っているが、先生方からこれについていろいろと学べるのも生きた言葉の習得に大変役立っている。使われている言葉が正しいのである。

ということで、毎回発見があるような中国語講座には飽きることがない。

つくば日中協会と私



つくば日中協会会員・中国語講座元受講生

盛 光 稔

庆祝筑波日中協会成立20周年記念。

本年つくば日中協会が20周年を迎えられたことは、協会の一員としてとても喜ばしく思うと共に、今日迄協会の発展にご尽力されて来られました不破会長をはじめ役員の皆様に心より感謝申し上げます。

私が当協会に所属したきっかけは、8年前に行われたつくば日中協会主催の忘年交歓会への参加でした。当時中国語を勉強していた妻の誘いで、何気なく参加したのですが、それまで中国人との接触が全く無かった私にとって、留学生と一緒に餃子を作ったり、ゲームをしたりしたことは、とても新鮮な体験でした。この交歓会での留学生との交流が、それ以降の私の生活スタイルを大きく変えることとなったのです。それまで語学に何の興味もなかった私が、時間さえあれば、中国語の勉強に取り組むようになったのです。また協会主催の料理交歓会や筑波登山などの活動への参加は、私にとって習い始めた中国語を実践する絶好の機会になりました。また活動中知り合った留学生と、その後も時々会って、お互いに会話練習をすることは、貴重な交流の場になっています。もっとも留学生の日本語の進歩はとても早く、数ヶ月も経つと流暢な日本語を話すようになって、日本語だけの会話になることもしばしばです。最初は会話練習が目的だったのですが、今では、民族習慣や社会制度の違いについても語るようになり、個

人的な信頼だけではなく両国社会の理解にも大いに役立っています。

こうした交流で深めた理解は、今は個人同士の小さなものでしかありませんが、将来彼らが帰国し自国において思い出してくれた時こそ、日中友好発展の大きな働きに繋がると信じています。

私が留学生との交流を通じて、中国の文化・習慣に触れることができたことはとても有意義なものであり、つくば日中協会に心より感謝しております。異国の文化・風習を知ること、それは鏡に映った自分の姿を見るようなもので、自国文化を客観的に深く知ることができるということだと思います。日本と中国は同じ漢字文化を持つ国であり、風俗や生活文化にも深い関わりがあるということを改めて実感しています。基本的には共通した社会文化を持つ日中両国は、他の国よりも深い理解を得ることができ、強い信頼関係を築くことが可能であると固く信じています。

私もつくば日中協会の一員として、今後も皆様と協力して両国の友好発展のお役に立ちたいと思っています。

つくば日中協会設立20周年に思う

つくば日中協会幹事

飯 田 茂



つくば日中協会が設立されて20年が経過しました。小生は設立後4年目からお世話になりました。きっかけは「常陽リビング」の中国語講座の案内だったと記憶しています。それまではつくば市の公民館講座で約半年間中国語を学んでいました。このまま続けたい気持ちがありました。中国との関わりは40年以上前に遡ります。某大学に学んでいた砌、日中平和友好条約締結前で中国全土では文化大革命渦中の、隣国でありながら遠い国といえた中国に興味を持ちました。

一口に言う20年という星霜は、中国の悠久の歴史からみるとひとまばたきにすぎません。殷賑を極めた清朝乾隆帝盛世期は世界のGDPの3分の1を占めていたといえます。中国近代の黎明は、アヘン戦争が契機にあるという説は多いです。この戦争が始まった1940年からの20年は中国史のなかでターニングポイントになった時期でしょう。

ニューヨークに屹立する「林則徐記念像」の彼は毅然としています。彼の功績がなかったら近代化は遅れていたかもしれません（当時三角貿易により多量のアヘンが中国に流入していたが、彼は欽差大臣として全てのアヘンを没収し対英貿易中止させた）。アロー号事件、太平天国など以後の20年はイギリス、ドイツなど欧州、ロシアや日本などの国々が跳梁跋扈するカオス状態に入ります。後の日清戦争、戊戌変法、義和団の乱、辛亥革命にその後の五・四運動など戦争と混乱の契機ともなりました。まさに「国破れて山河あり」（杜甫『春望』）の相を呈したことは歴史に見る通りです。その20年後（1860年代）あたりから活躍したのは、言わずと知れた知日派の李鴻章です。「垂簾聴政」と「督撫重権」が噛み合い比較的安定した時代でした。1949年の中華人民共和国の建国までの109年は、ま

さに苦難の道を辿ってきました。

古来より中国と日本は「一衣帯水」（一筋の帯のような狭い水をへだてて近接している）と表現されます。日本の律令制度は唐制に倣い体系的法典を編纂・施行したことが実証されています。一方、清朝末には日本の絶対主義天皇制を先進的事例としたし、1905年日本で中国同盟会を成立させるなど、有史以来お互いが共に影響しあい発展してきたことは両国の歴史が証明しています。

翻って、私のこの20年を回顧してみますと、熟年期になってからの中国語講座受講は単語や文法などは憶えても忘れてしまうことが多々あり、講師を困らせてしまったこともあったような気がします。しかし、授業のなかで地理や風土、現代の中国の文化などを学ぶことができました。中国旅行、料理講習会、筑波山登山などの諸活動を通じ、中国のみなさんと交流ができましたことは、意義ある時間を共有することで、小さな我が人生に彩りを添えることになりました。特に、1999年春に唐先生のご案内で、講座受講生のみなさんで行った中国旅行は、強行スケジュールながらこれからの学習に弾みがつきました（唐先生のお母さんとともにいただいた元宵の味は格別でした）。また、2011年の寧波工程学院訪問は学生さんに日本人学生にはない若さとエネルギーを感じ、日本語学習に対するひたむきさに感心させられました。この場を借りてお世話になりましたみなさまがたに心より厚く御礼申し上げます。

これからは、今次の20周年を機に、これまで培った交流活動等を生かしながら、さらに次の20年に向かって飛躍できるよう微力ながら努力いたす所存です。

つくば日中協会主催の行事を担当して

つくば日中協会幹事

川 村 路 子



日中協会の中国語講座を受けるようになってから、行事に関わる人の少なさに見るに見かねてお手伝いをするようになり、はや8年にもなるようとしています。これまで主催行事である年忘れ日中交歓会、中国家庭料理教室、日本料理教室と食べる行事にはすべて関わってきたように思います。

料理を作って食べるということは万国共通で、お互いの交流がとても滑らかに進みます。

年忘れ交歓会では主に筑波大学の中国からの留学生と一緒に水餃子を作り、有志の持ち寄りのお汁粉や、豚汁、お寿司、時にはおでんなどを食べながらゲームをして楽しい一時を過ごします。日本では餃子と言えば焼き餃子が一般的ですし、餃子だけでお腹いっぱいにするということもあまりありませんが、中国ではこれだけでお腹一杯になるほど食べます。ちなみに1人10個食べると計算して人数分作ると、およそ500から600個作ることになります。朝から作業を始めても昼にようやく間に合う程の時間がかかります。粉のこね方、材料の切り方、具の混ぜ方、包み方など、難しい会話でなくても通じ合えることは盛りだくさんあります。

また、中国の方との料理教室では、留学生の皆さんがメニューを考えて、私たち日本人に中国の家庭の味を教えてください。本場の麻婆豆腐、包子、回鍋肉、鶏手羽先のコーラ煮、トマ

ト入り卵スープ、にんにく入りのキュウリの即席漬けなどなど。どれを食べても口に合うのは日本人にとって中華料理は日頃食べ慣れているからでしょうか。

日本料理教室では一般の家庭で日頃食べている料理で、留学生の皆さんでも日本に滞在している間に作れるようなものを選びます。たとえば、鯖の味噌煮、海苔巻き寿司、おいなりさん、肉じゃが、豚汁など。また、出かけるときに持ち運びのできるおにぎり。おにぎりは日本人にとってごくごく普通に誰でも作れるものですが、主食を持ち歩かない中国の方にとって、おにぎり作りを初めて体験する人がほとんどで、とても新鮮な様子でした。

私たちの中国の方との交流は構えることなく、このような作業を通してお互いの生活習慣の違い、文化の違い、食の違いなどを知る絶好の機会であり、いろいろな形で話が弾みます。行事に参加してくださる中国の方々には日本語がとても上手で、中国語で交流をと考えていてもほとんど日本語になってしまうのは、いつものことながらもったいないなと思っています。

つくば日中協会の活動に参加して

つくば日中協会幹事

宮 島 利 博



平成17年に杭州を訪れたことがすべての始まりでした。ツアー旅行嫌いな私は、観光客が観光バスで大挙して押し寄せるような観光地は、なんとなく気持ちが萎えてしまいます。「中国には団体旅行客が足を運ばない魅力的な場所がまだまだたくさんある、何度でも中国に行きたい」、それが中国語の勉強を始めるきっかけでした。

杭州旅行から帰ってまもなく、つくば日中協会の存在を知り、受講することにしました。つくば日中協会では、範先生、楊先生、李先生、孟先生、和泉田先生と、講師として優秀なだけでなく、人格にも優れ、日中交流や、中国文化や中国事情の紹介にも熱心で、そのためには全く労を惜しまない、素晴らしい講師陣と出会うことができました。そのため、なお一層中国にも興味を持ち、中国人に好感を持つこととなりました。

何とか中国語が上達するようにと、週に3コマの授業を受講したこともありましたが、しかし、語学の向上はイライラするほど遅く、中国旅行に行くたびごとに自分の語学力の進歩を実感しては次の中国行きを楽しみにするようになりました。そんなおり、宮島さんは勉強熱心で料理も得意だからと、不破会長から役員になって欲しいとお声が掛かりました。私としてはたいして考えもせず、安い受講料で、なかみの濃い講義とさまざまな行事を提供していただいている

のだから、私に出来ることはさせていただこうと快諾しました。

つくば日中協会の役員となって、私が積極的に関わった行事が、寧波大学及び寧波工程学院訪問です。この2度の寧波訪問は私たちにとって、ただの旅行にとどまらない印象深いものになりました。勉強熱心で人なつこい大学生たちのレベルの高い語学力に感心し、大学の学食で学生たちと同じものを食べ、彼ら彼女らが入居している寮を見せていただき、一緒に授業を受け、また、私たちが講師となって授業を行い、一緒に日本のカルタやオセロに興じ、餃子やおにぎりを一緒に作ったり、中国の学生とじかに触れ合う貴重な体験となりました。充実した日々を終えて、私は大きないい仕事のできた後のような充実感に満たされていました。

ところで、平成17年から続いていた私の受講は、昨年ついに途切れてしまいました。資格試験勉強のためです。にもかかわらず、私は寧波訪問の後に味わった充実感をまた再び味わいたくて、20周年記念誌の発行を提案しました。その結果、試験勉強のために十分な役割が果たせず、他の役員の皆様には大変なご迷惑をおかけしてしまいました。しかし、これに懲りず、今後も役員の末席に加えていただけたらと考えています。

20年の歩み - 年表

西 暦 (平 成)	月 日	行 事 名 (場 所)	説 明
1993 (H5)	12月10日	発会式と記念祝賀 パーティー (つくばインフォ メーションセン ター)	約90名が参加し、その内の半数が その場で新しくつ くば日中協会の会員登録をして入会された。茨城新聞 などに報道された。 発会式では発起人の一人である稲葉つくば市助役の司 会で議事が進められ、発会式開催に至るまでの経緯の 説明とつくば日中協会会則(案)に基づいて、会則の 制定、役員の選任が行われた。 会長に電子技術総合研究所の不破正宏主任研究官、幹 事長に図書館情報大学の大庭治夫教授が推薦され、参 会者の賛同を得て新役員が了承された。 事務局は内外研究センターにおき、事務局長は幹事長 が兼任。 引き続きして不破新会長の挨拶があり、来賓として本会 名誉会長に就任頂いた木村操つくば市長および種田六 郎茨城県日中友好協会副会長から祝辞が述べられた。 さらに、駐日中国大使館の張慧春参事官の記念講演が 行われた。 発会式終了後は参会者一同、記念集合写真を撮影して から隣室に会場を移して、発会式記念祝賀パーティが 開催された。
	12月	中国人留学生会の 忘年会に出席 (筑波大学)	中国大陸および台湾出身の筑波大学の中国人留学生の それぞれの会から招待状を頂き、不破会長が参加し た。
1994 (H6)	3月1日	つくば日中協会 ニュース (筑波日中協会 会 報) 創刊	1. つくば日中協会会長としての希望(不破)。 2. つくば日中協会結成を祝して(中国大使館参事 官)。 3. つくば日中協会発会式報告。 4. 日中友好だより。 5. つくば日中協会活動記録及び今後の予定。 6. 会員の声・会員消息などを掲載した。
	4月9日	総会および観桜会 (万博記念公園)	つくば市長と助役の他、二人のミスつくばも参加さ れ、楽しいお花見会になった。ミスつくばの一人は フィリピン出身の留学生でしたので桜の木の下でフィ リピンの舞踊を披露した。また、幹事の川鍋さんが太 極拳を披露した。
	6月	月例懇談会発足 第一回 (春日公民館)	春日公民館を会場に、毎月第3木曜日19:00~21: 00。内容は専門的なものから一般的なもので、何ら かの形で日中両国民に関連のある話題を提供と質疑、 応答、雑談などが行われ、究めて有意義な情報交流の 場となった。
1995 (H7)	3月	ニュース発行	第2号が発行された。
	4月6日	総会および観桜会 (農環研と農林団 地)	農業環境技術研究所の小会議室で総会を開き、その後 農林団地の桜木下でお花見をした。約40人が参加し た。
	4月15日	中国家庭料理の会発 足、第一回実習 (カスミつくばセン ター)	つくば市に滞在する中国の方々から中国各地の家庭料 理の作り方を教わり、お互い作品を試食しながら食文 化の交流を行い、好評であった。

1995 (H7)	4月20日 ～12月	(新) 月例懇談会 第9回～16回 (春日公民館)	春日公民館を会場に、毎月第3木曜日19:00～21:00。約2年間続いた。話題は、「つくば市の日中交流の現状」、「自由市場よもやま話」、「北京の商業と庶民の生活」、「ベトナムー中国の国境」、「中国の砂漠」、「中国のレアメタル」、「中国深セン紀行」、「日中の日常品の物価比較と庶民生活」、日本と香港の生活事情」、「北京近郊の風物と農民の明け暮れ」、「思い出茨城青年の船」、「ウイグル人の生活、モノの見方、考え方」、「中国語教育の現場から見た日中交流」、「中国伝統思想と住宅」など。
	4月	事務局移転	事務局を下記に移転、戸田雄三氏が事務局長。つくば市上の室 286-3 つくば日中協会事務局 (戸田 雄三気付け)
	10月28日 ～11月4日	日中友好訪中団発足 第一回 (北京・成都)	10名の団員構成で北京市と成都市を訪問し、先方の文化団体と交流を深めた。また一般の観光では経験の出来ない名所旧跡、文化・芸術、人情などに触れることができ、極めて有意義であった。
1996 (H8)	1月	つくば日中協会ホームページ開設	熱帯農業研究センターの個人ページにつくば日中協会のHPを設けた。 Http://ss.jircas.affrc.go.jp/~dummy/sinojapa.htm
	3月12日	平成7年度茨城県国際交流奨励賞を受賞 (水戸)	受賞式は水戸市で開かれ、不破会長、杜幹事長、冷岡幹事が参加した。
	3月	ニュース発行	第3号が発行された。
	4月13日	総会および観桜会 (二の宮公民館と洞峰公園)	二の宮公民館にて総会を終了後、洞峰公園に移り、約30人でお花見会を行った。
	5月13日	つくば日中協会便り 刊行	月例懇談会や中国家庭料理会を毎月開催するにあたって、お知らせなどのために刊行した。活動報告や、役員名簿なども掲載した。
	1月～12月	中国家庭料理の会 実習 (春日公民館)	毎月第3土曜日。料理は、ウイグル料理、上海料理、山東料理、青海料理、北京料理、福建料理、江蘇料理など。
	1月～12月	月例懇談会 (春日公民館)	毎月第3木曜日。話題は、「中国の教育」、「カラーと中国文化」、「日中算数教育の改善案」、「中国文化と生態学」、「中国の教育」、「中国の物流業界の現状」、「中国東北地方の日常生活」、「インターネットで中国語を使う」、「中国の研修生との交流」など。
1997 (H9)	3月	ニュース発行	第4号が発行された。
	4月5日	総会および観桜会 (春日公民館)	つくば市藤沢順一市長が総会に参加し、挨拶した。総会後のお花見会は小雨のため春日公民館の調理室で料理と飲み物をつまみながら、窓越しに満開の桜を見て、まさに(花より団子)と歓談を楽しんだ。

1997 (H9)	6月～翌年 3月	中国語講座開講 (中央図書館)	つくば市国際文化課と共催で、中国語講座を開講した。入門コースと初級コースを設け、受講生の皆さんが毎週熱心に頑張った。この講座は受講生から高い評価を受けた。 つくば日中協会の中国語講座はその後毎年開講されている。
	6月4日	中国の書家講演会 (竹園公民館)	つくば日中協会及び近隣の書道愛好家約30名が集まり、中国の著名な書家李正中（当時71歳）の講演を聞いた。その後書道について質疑応答が行われた。
	6月～7月	雲南地震復興義援バザー実施	雲南地震へ見舞金寄付（8万円、約555456元）
	8月	初めて月見会（以来中秋のパーティになった）開催	この年から、ほぼ毎年中秋節前後に、パーティを開催した。
	10月	初めてホームステイを実施	中国留学生を招待して、日常の食事を出し、日本の家庭生活を見てもらう。その後、ほぼ毎年実施した。
	12月	初めて年忘れ日中交歓会を開催 (二の宮公民館)	日中協会の会員の他、つくば市国際交流課と共催により開講した中国語講座の受講生及び中国留学生と交歓会に関心のある多数の方々が参加した。
1998 (H10)	1月	ホームページ新しいアドレスで再開	一般公開のYahooにホームページを設けた。 http:// www.geocities.co.jp/WallStreet/1702
	3月	ニュース発行	第5号を発行。藤沢順一市長の総会での挨拶、中国語講座の感想文、つくば日中協会の活動報告などを掲載した。
	4月～翌年 3月	中国語講座開講 (中央図書館)	入門コースと初級コース。
	4月11日	総会および観桜会 (筑波大学クラブハウスと桜広場)	総会後のお花見会は天候に恵まれ、また筑波大学中国人留学生も参加して和やかな中に歓談を楽しんだ。
	10月2日	月見会兼日中交歓会 (二の宮公民館)	中国語講座の受講生、中国人留学生、つくば日中協会会員計40名参加した。
	12月26日	年忘れ日中交歓会 (ゆかりの森・老人福祉センター)	中国語講座の受講生、中国人留学生、つくば日中協会会員計70名参加した。余興コーナーは、ゲームあり歌あり、大変盛り上がった。特に中国語講座の講師杜国慶先生と唐莉莉先生の中国の歌には全員が感動し、終了後も拍手がなり止まらず、アンコールに応じて頂いた。
1999 (H11)	1月21～23 日	中国深圳市訪問 (中国深圳市)	中国深圳市とつくば市囲碁友好都市提携調印式に不破会長が参加した。
	3月25～30 日	中国語講座北京訪問 団北京訪問 (中国北京市)	東洋大学牛久高校の生徒（講師唐莉莉氏が引率）と中国語受講生の有志者21人が参加した。

1999 (H11)	3月	ニュース発行	第6号を発行。藤沢順一市長の寄稿、中国訪問の報告（飯田、不破）、中国語講座の受講生の感想と宿題などを掲載した。
	4月18日	総会と懇親会 （二の宮公民館と洞峰公園）	いい天気なので、総会後の懇親会は大変盛り上がった。
	4月～翌年 3月	中国語講座開講（中央図書館）	入門コースと応用コース。
	10月15日 ～21日	中国訪問	不破会長ら3人中国雲南省を訪問、雲南地震で被害し、つくば日中協会が見舞金を送った新苗幼稚園を見学した。
	12月18日	年忘れ日中交歓会 （ゆかりの森・老人福祉センター）	余興コーナは、ゲームや歌の他、生花及び太極拳の演武などがあり、大変盛り上がった。
2000 (H12)	3月	ニュース発行	第7号を発行。藤沢順一市長の寄稿、中国雲南訪問の報告（鈴木）、中国語講座の受講生の感想と宿題などを掲載した。
	3月24日	中国語講座終了パーティ（星の家）	2コースの受講生と先生ほぼ全員が参加した。
	4月～翌年 3月	中国語講座開講（中央図書館）	初級コースと応用コース。
	5月6日	平成12年度総会（二の宮公民館）	総会の後、洞峰公園で歓談会、筑波大学留学生も多数参加した。
	9月22日	筑波大学留学生会主催交歓会に参加（筑波大学）	不破会長と幹事5名が参加した。
	12月23日	年忘れ日中交歓会（ゆかりの森・老人福祉センター）	特に、ゲームや歌のほかピアノ演奏があり大変盛り上がった。杜国慶氏と唐莉莉氏の中国の歌には全員が感動した。
2001 (H13)	4月～翌年 3月	中国語講座開講（中央図書館）	入門コース、初級コース、応用コース。
	5月	ニュース発行	第8号を発行。特に、中国語講座に関する感想と宿題の発表とつくば日中協会の活動報告を刊行した。
	6月9日	平成13年度総会と日中交歓会（二の宮公民館）	総会の後、洞峰公園で歓談会、筑波大学留学生も多数参加した。
	10月1日	筑波大学留学生会主催交歓会に参加（筑波大学）	不破会長と会員7名参加した。
	12月16日	年忘れ日中交歓会（ゆかりの森・老人福祉センター）	余興のコーナでは、ビンゴゲームや歌のほかピアノ演奏があり大変盛り上がった。また、杜国慶氏と唐莉莉氏の中国の歌には全員が感動した。

2002 (H14)	4月7日	平成14年度総会と日 中交歓会 (春日公民館)	総会終了後、同公民館の調理室で交歓会が催された。 筑波大学中国人留学生も参加して各自の自己紹介、出 身地の紹介やそれに関する話題に花が咲いた。持ち込 まれた料理も美味しく和やかな交歓会となった。
	4月	事務局移転	事務局長を交代のため、事務局を下記に移転した。 〒305-0031 茨城県つくば市吾妻 4-13-21 川久保忠 通気付 つくば日中協会事務局 電話/FAX：029-851-4619
	4月～翌年 3月	中国語講座開講 (中央図書館)	入門コース、初級コース、応用コース。
	4月	ニュース発行	第9号を発行。藤澤順一つくば市長の巻頭言、中国語 講座受講生の感想文、年忘れ交歓会の報告などが掲載 された。
	10月4日	筑波大学中国人留學 生会主催の国慶節・ 中秋節交歓会に参加 (筑波大学)	不破会長と会員4名が参加した。
	12月23日	年忘れ日中交歓会 (ゆかりの森)	今回から、飲酒運転防止を考慮してアルコール抜き の交歓会となったが、不破会長の奥様の軽妙な司会でビ ンゴゲームや歌などで大いに盛り上がった。
2003 (H15)	4月～翌年 3月	中国語講座開講 (中央図書館)	入門コース、初級コース、応用コース。
	6月	ニュース発行	第10号を発行。藤澤順一つくば市長の巻頭言、中国語 講座受講生の感想文、王幹事長のエール大学滞在記、 平成14年度活動報告などが掲載された。
	10月10日	筑波山登山(第1回)	会員(4名)と筑波大学中国人留学生(約13名)が参加。 筑波山に登山後つくばの古い民家を改造したレストランで 会食した。
	12月	年忘れ日中交歓会 (ゆかりの森)	会員と大勢の筑波大学留学生出席した。
2004 (H16)	4月～翌年 3月	中国語講座開講 (中央図書館)	入門コース、初級コース、応用コース。
	12月	年忘れ日中交歓会 (ゆかりの森)	会員と大勢の筑波大学留学生出席した。
2005 (H17)	5月～翌年 3月	中国語講座開講 (中央図書館)	入門コース、初級コース、応用コース、会話コース4 コースになった。
	5月	平成17年度総会 (春日公民館)	役員(9名)、講師(3名)、会員(12名)が出席した。
	12月23日	年忘れ日中交歓会 (ゆかりの森)	会員と大勢の筑波大学留学生出席した。
2006 (H18)	4月～翌年 3月	中国語講座開講 (中央図書館)	4コース開講。入門(前半:和泉田恵美(廖帥))/後半:王・初 級(楊豪傑)・応用(呉)・会話(野澤) (各コースとも40 回)
	6月	平成18年度総会	役員(8名)、講師(4名)、会員(約10名)が出席した。
		中国家庭料理教室 (小野川公民館)	女性講師や杜(国慶)元講師の指導

2006 (H18)	10月9日	筑波山登山(第2回)	会員(14名)と筑波大学中国留学生(22名)参加した。
	12月	年忘れ日中交歓会 (ゆかりの森)	会員と大勢の筑波大学留学生出席した。
	10～12月	ホームパーティー (各会員の自宅)	会員(9名)の協力により留学生(合計32名)を各家庭に招待した。
2007 (H19)	3月	中国語講座終了パーティー (楼外楼)	4コース合同の終了パーティー
	4月～翌年 3月	中国語講座開講 (中央図書館)	5コース開講(全受講者数:54名) 入門(和泉田恵美(廖帥))・初級(楊豪傑)・基礎会話(和泉田)・中級(野澤有希(徐燕))・応用(楊)
	5月	平成19年度総会 中国家庭料理教室 (豊里公民館)	女性講師や彭(玉全)氏の指導
	9月	筑波山登山(第3回)	会員(8名)と筑波大学中国留学生(13名)参加した。
	12月	年忘れ日中交歓会 (ゆかりの森)	会員と大勢の筑波大学留学生出席した。
	10～12月	ホームパーティー (各会員の自宅)	会員(8名)の協力により留学生(合計28名)を各家庭に招待した。
	11月	ホームページの刷新	中国語講座のカレンダーをアップ。
2008 (H20)	12月	ニュースの発行	第11号を発行。2006年と2007年2回の筑波山登山特集として、登山報告(川久保)と会員、特に中国語講座の受講生たちの感想文を掲載した。会員や名誉会長である市長をはじめ市の関係者、筑波大学留学生会にも配付した。
	1月	ニュースの発行	第12号を発行。2006年と2007年2回ホームパーティー特集として、ホームパーティー報告と感想文を掲載した。
	3月18日	中国語講座終了パーティー (楼外楼)	5コース合同(約40名の出席)
	4月～翌年 3月	中国語講座開講 (春日・竹園・小野川公民館)	5コース開講(各コースとも年間40回の開講)(全受講者数:47名)基礎(和泉田恵美(廖帥))・初級(楊豪傑)・基礎会話(和泉田)・新汉语(野澤有希(徐燕)/李晶)・応用(楊)
	6月8日	平成20年度総会 (小野川公民館)	役員(9名)・講師(2名)・会員(16名)が参加した。 四川大地震の義援金(105,307円)を筑波大学中国人留学生学友会代表楊豪傑氏に手渡した。
		中国料理日中交歓会 (小野川公民館)	日本人(23名)、中国人(24名)の参加。皆で作った中華料理を味わいながら交歓した。
	9月	ニュースの発行	第13号発行。つくば市市原健一市長の寄稿、不破会長のつくば日中協会設立15周年記念の挨拶のほか、中国四川省地震被害義援金募金緊急報告などを掲載した。
	9月27日	筑波山登山(第4回)	会員(11名)と筑波大学中国留学生(25名)参加した。

2008 (H20)	12月21日	年忘れ日中交歓会 (ゆかりの森)	約70名の参加の内、中国人の参加者は約30名。
	10月～翌 年1月	ホームパーティー (各会員の自宅)	会員(11名)の協力により留学生(合計40名)を各家庭に招待した。
	11月	ホームページの刷新	中国語講座のカレンダーやニュースの最新号をアップ。
	11月21～ 24日	中国旅行	会員(16名)参加。寧波大学日本語学科の約30名の学生達と交流。寧波・紹興・上海を見物。
2009 (H21)	2月	ニュースの発行	第14号発行。筑波山登山、ホームパーティ、年忘れ日中交歓会および春節パーティー(筑波大学中国留学生学友会主催)の報告と感想を掲載した。
	4月～翌年 3月	中国語講座開講 (春日・竹園・小野川公民館)	5コース開講(各コースとも年間40回の開講)(全受講者数:48名) 入門(辺家勝/和泉田)・初級(楊豪傑)・応用(楊)・基礎会話(孟熙)・新汉语(李晶)
	5月16日	平成21年度総会 (小野川公民館)	役員(8名)・講師(3名)・会員(7名)と中国人留学生(12名)もワザサーバーとして参加
		中国料理日中交歓会 (小野川公民館)	中国人留学生の指導の下6種の中華料理作った。食後交歓会。
	9月27日	筑波山登山(第5回)	会員(8名)と筑波大学中国留学生(24名)参加
	12月5日	年忘れ日中交歓会 (ゆかりの森)	約70名の参加の内、中国人の参加者は約40名。
2010 (H22)	11月～翌 年1月	ホームパーティー (各会員の自宅)	会員(9名)の協力により留学生(合計35名)を各家庭に招待した。
	2月	ニュースの発行	第15号を発行。2009年度中国語講座開講式&お茶会、総会および中国料理交歓会、筑波山登山、日本料理講習会、年忘れ日中交歓会および春節パーティー(筑波大学中国留学生学友会主催)の報告と感想を掲載した。
	3月23日	中国語講座終了パーティー (楼外楼)	受講者(約40名)参加
	3月	ホームページの刷新	インターネットに詳しい会員により中国語講座の紹介記事の内容充実努めた。
2010 (H22)	4月～翌年 3月	中国語講座開講 (春日・竹園・小野川公民館)	5コース開講(各コースとも年間40回の開講) 入門(和泉田恵美)・基礎(孟熙)・中級(孟熙)・応用(李晶)・新汉语(李晶) (注)前年度末に予定されていた講座終了パーティーは東日本大震災により中止。その費用を寄付に回す。

2010 (H22)	5月15日	平成22年度総会 (小野川公民館)	役員(8名)・講師(2名)・会員(6名)と会員の家族(4名)・中国人留学生(21名)もワザンバーとして参加。岡田副市長と筑波大学中国留学生学友会代表黄会長も参加。
		中国料理日中交歓会 (小野川公民館)	中国人留学生の指導の下8種の中華料理作った。食後交歓会。
	10月16日	筑波山登山(第6回)	会員(13名)と筑波大学中国留学生(24名)参加した。
	11月13日	日中市民フォーラム (並木公民館)	テーマ:異文化体験(講師:松木益道氏、趙丹花氏)。岡田副市長、黄筑波大学中国人留学生学友会会長も参加。
	12月19日	年忘れ日中交歓会 (ゆかりの森)	岡田副市長・ヘイズ・ジョン市議・片岡国際課長出席。
	12月28日	寧波工程学院訪問 (寧波工程学院)	不破夫妻・宮島・飯田の4氏が寧波工程学院を訪問、院長や学院首脳部と会見した。
	10月～12月	ホームパーティー (各会員の自宅)	会員(8名)の協力により留学生(約30名)を各家庭に招待した。
2011 (H23)	1月16日	日本料理講習会 (小野川公民館)	日本人会員が講師を務め中国人留学生(20名)が日本料理(海苔巻き寿司・稲荷寿司・鯖の煮付け)を作り、懇談しながら食事。
	2月	ホームページの刷新	インターネットに詳しい会員により中国語講座の紹介記事の内容充実に努めた。
	3月31日	ニュースの発行	第16を発行。中国語講座開講式&お茶会、総会および中国料理交歓会、つくば登山、日中市民フォーラム、ホームパーティー、日本料理講習会、寧波工程学院外国語学院訪問および春節パーティー(筑波大学中国留学生学友会主催)の報告と感想を掲載した。
	5月～翌年3月	中国語講座開講 (春日・竹園・小野川公民館)	5コース開講(各コースとも年間40回の開講)(受講者:37名) 入門(和泉田恵美)・初級(孟熙)・中級(孟熙)・応用(李晶)・新汉语(李晶) (注)通例では4月からの開講であるが、この年は東日本大震災により5月から開講。
	6月11日	平成23年度総会(小野川公民館)	役員(10名)・講師(1名)・会員(9名)と中国人留学生(11名)もワザンバーとして参加。筑波大学中国留学生学友会代表孟会長も参加。
		中国料理日中交歓会 (小野川公民館)	総会出席者の他、岡田副市長・沼尻氏(国際・文化課)や会員の家族の参加(総勢36名)
	9月17～24日	寧波工程学院訪問 (寧波工程学院)	中国語受講生(7名)が学院の日本語科の授業を見学、学生との交流、講義も行った。
	10月16日	筑波山登山(第7回)	会員(11名)と筑波大学中国留学生(26名)参加した。
	12月17日	年忘れ日中交歓会 (ゆかりの森)	筑波大学中国人留学生(40名)・岡田副市長・ヘイズ・ジョン市議出席
	10月～12月	ホームパーティー (各会員の自宅)	会員(4名)の協力により留学生(約13名)を各家庭に招待した。

2012 (H24)	1月22日	日本料理講習会 (小野川公民館)	日本人会員が講師を務め中国人留学生(20名)が日本料理(海苔巻き寿司・鯖の煮付け・お吸い物)を作った。
	4月～翌年 3月	中国語講座開講 (春日・竹園・小野川交流センター)	4コース開講。各コースとも年間40回(受講者:37名) 初級(和泉田恵美)・中級(孟熙)・応用(李晶)・新汉语(李晶) (注)前年まで行っていた入門講座を止め、この年は4コースとなった。新規受講者は3,4名入会した。
	5月19日	平成24年度総会 (小野川交流センター)	役員(9名)・講師(1名)・会員(6名)と中国人留学生(19名)もオブザーバーとして参加。来賓は筑波大学中国留学生学友会代表孟会長と岡田副市長。
		中国料理日中交歓会 (小野川交流センター)	総会出席者の他、2名の市職員も出席、6品以上の中華料理を作り懇親した。
	7月21日	つくば日中フォーラム (春日交流センター)	テーマ:旅(講師:川久保忠通氏・何銀春氏・杜明遠氏)
	10月13日	筑波山登山(第8回)	会員(9名)と筑波大学中国留学生(35名)参加した。
	10月13日	ニュースの発行	第17号が発行。市原健一つくば市長(つくば日中協会名誉会長)の巻頭言と平成23年度における「つくば日中協会」の活動の概要を掲載した。
	12月23日	年忘れ日中交歓会 (ゆかりの森)	会員と中国人留学生(40名)と岡田副市長・市職員(2名)出席した。
	10月～12月	ホームパーティー (各会員の自宅)	会員(3名)の協力により留学生(10名)を各家庭に招待した。
2013 (H25)	1月19日	日本料理講習会 (小野川交流センター)	川村幹事を日本人会員(9名)が補佐し、中国人留学生(19名)に日本料理を指導し、一緒に会食。(メニュー:肉じゃが・太巻き・お握り・お吸い物)
	3月	新規ホームページ作成	従来までのHPはソフトの関係で編集出来なくなり、新しいソフトにより新規作成した。 https://sites.google.com/site/tsukubarizhongxiehui/
	4月15日	総会と中国講座の開講式 (小野川交流センター)	平成25年度総会の後、中国語講座の4コース合同の開講式を行った。
	4月～翌年 3月	中国語講座開講 (春日・竹園・小野川交流センター)	4コース開講。各コースとも年間40回(受講者:37名) 初級(和泉田恵美)・中級(孟熙/後半は金佳)・応用(何銀春)・新汉语(李晶)
	10月26日	筑波山登山(第9回)	会員(12名)と筑波大学中国留学生(30名)参加した。

つくば日中協会20周年の記録

思い出の写真

発会式



総会と花見





筑波山登山





料理教室と懇親会（忘年会）





中国語講座とその他の交流フォーム



中国旅行





その他の活動



ホームパーティ



中国の書道家来訪

広き田に足踏み脱穀機使い后り過ぎる日本をうたふ思ひす
 異国の地に漸くなれり三日目に姉は折々のメモをうたふ
 黄山西に向ふ道路の両端に農夫が穀をうたふ返りなり
 黄山西の麓より山道歩き来り買ひたての靴下一つ穴あく
 「歩く時景色を見ないで歩きなさい」ガイドの話を聞いて聞く
 四照花の太木を黄山西に見つたり霞白く山故にうたふ愛でたり
 鈴木貞男

中国旅行詠草 丙子年八月二十七日
 生き金にならばと常に思ひて中国旅行に姉を招けり
 夏雲を割りて従えり富山を機窓に見つて姉と眺めり
 筑波嶺に良く似し山が南京の東に聳えり懐かしき増す
 三十万といふ虐殺現場の記念館に花輪を供えり黙せり
 拷問をうたふ写真の前に立ち中国人のうたふと思ふ
 一日の南京観光終り夜十二チャンネル尾瀬沼を写す

つくば日中協会発足及びその後新聞報道など

TSUKUBA CITY
市報


1994年（平成6年）
つくば

5
15
号

毎月1・15日発行
発行
つくば市
つくば市谷田部4741 平305
☎ 0298(36)1111(代)
FAX 0298(36)9472

No.116

桜を見ながら交流会
つくば日中協会

4月9日、つくば日中協会（不破正宏会長）の初の交流会が開かれ、筑波大学の中国人留学生など、約50人が集まりました。

参加者は、総会のあと科学万博記念公園に場所を移し、日本の風物であるお花見を楽しみました。穏やかな日頃のなか、お花見には、木村市長や稲葉助役、ミスつくばも参加。集まった人たちは、春らんまんの桜につつまれて交流を深めていました。

つくば日中協会は、つくばを中心に日中交流に関心を持つ仲間が連携して、市民レベルで相互扶助関係を発展させようと設立されたものです。



本場の太極拳も披露された

義援活動

①1997年中国雲南省地震被害への募金と寄付

現金收款收据

1997年7月28日 数字 3

收款单位: 丽江地区新苗幼儿园 收款人姓名: 不破正宏

收到日本国筑波市日中協会贈寄新苗幼儿园恢复重建资金 壹万伍仟伍佰伍拾肆元五角玖分

共计人民币 壹万伍仟伍佰伍拾肆元五角玖分 ¥15545.56

单位负责人: 和月春 收款人: 桑玉华

云南省 丽江地区办事处

云 南 省 妇 女 联 合 会

尊敬的正宏先生: 您好!

今天, 我们终于收到了贵单位汇来的 筑波市日中協会 丽江地区新苗幼儿园捐赠的八万日元。目前, 我们正

領収書と感謝の手紙（抜粋）

ご 挨 拶

殿

謹 啓 時下益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、この度の中国長江流域及び松花江流域が洪水災害に見舞われたことに対しまして、早速に暖かいご援助を賜り、謹んで中国政府と被災地を代表しまして、衷心より厚く御礼申し上げます。
頂戴しました救援金は中国民政部を通じまして、いち早く被災地に届け、被災民の救助と現地の復興に役立てております。なお中国民政部から本大使館あてに“感謝状”が届けましたので、ここに同封させて頂きます。
時節柄一層の御自愛をお祈り申し上げます。

敬 具

中華人民共和国
駐日本国大使館

領 収 証

つくば日中協会 不破正宏様 No. 99045

★ ¥40000 円

中国長江、松花江流域大洪水被災地へ

99年4月20日 上記正に領収いたしました

内 訳

収 入

印 風

大使館 中国国章

中国大使館からの手紙と領収書

②1998年中国洪水被害への寄付

中华人民共和国民政部

感 谢 信

つくば日中協会 不破正宏:

今年, 我国部分地区遭受严重洪涝灾害, 人民生命财产受到严重损失。值此危难之际, 您 伸出援助之手, 慷慨捐赠赈灾款 40000 元, 帮助灾区度过难关。这笔捐赠款我们将及时、如数转交灾区人民。在此, 谨代表灾区人民表示衷心的感谢。

顺致
崇高敬意!

中华人民共和国民政部办公厅
一九九八年四月二十一日

中国厚生省からの感謝状

③2008年中国四川省大地震被害への寄付

礼 状

筑波大学中国留学生学生会
つくば日中協会 殿

貴会より我が国四川省大地震による深刻な被害が出ていることに対し、105310 円の義援金を寄付して頂き、これにてご善行を称え、感謝するものと証す。

中華人民共和国駐日本国大使館
公 使 参 事 官
2008年6月10日

教育部驻外机构专用收据 No. 0522316

付款单位(个人) 筑波大学中国留学生学生会つくば日中協会

收款项目	单位	数量	单价	币种	金 额
四川地震捐款 (第三回)			105310	人民币	105310.00

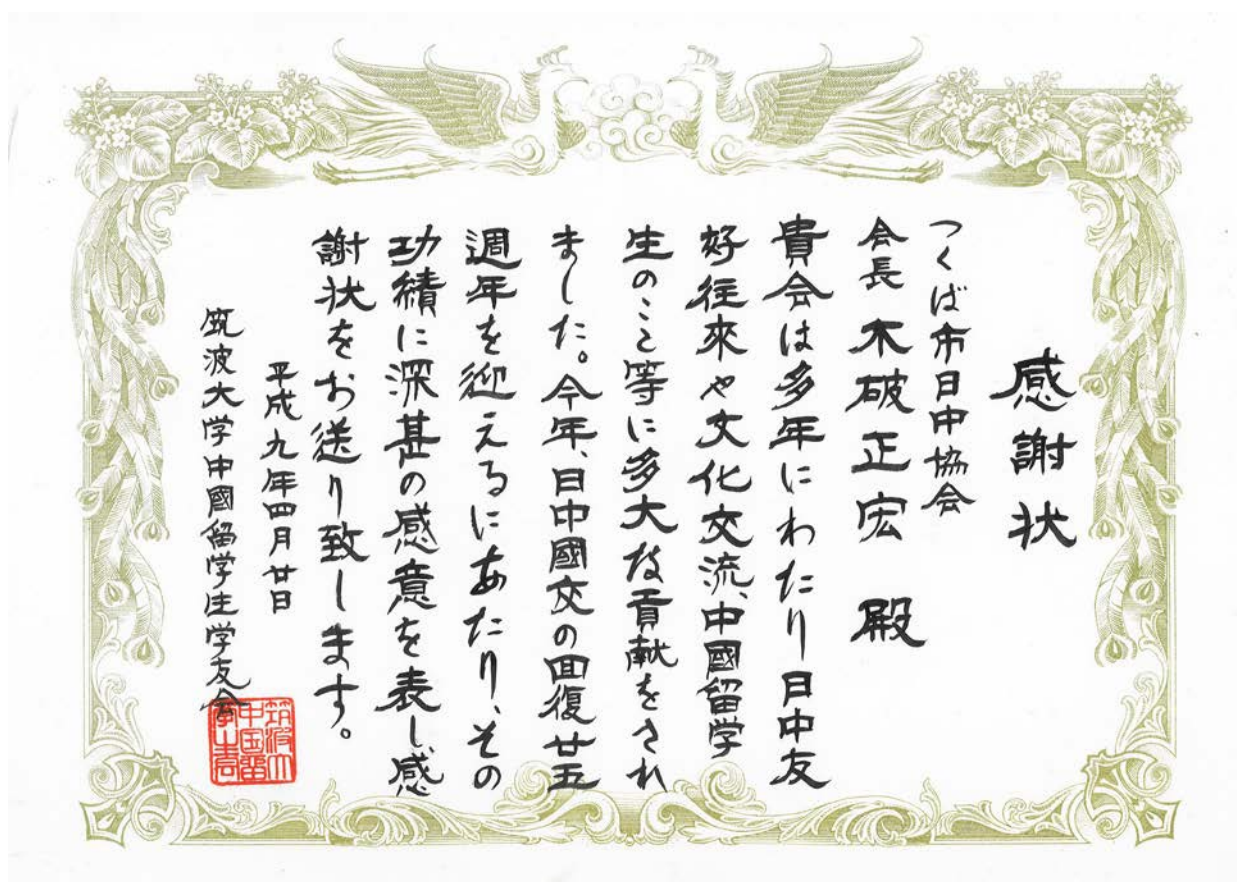
現金已收

大写金额(币种) 人民币 壹拾万零伍仟叁佰壹拾元 零 分

收款单位(盖章) 收款人 长小 开票日期 2008年6月10日

中国大使館からの礼状と領収書

感謝状と記念写真



平成7年度 茨城県国際交流奨励賞表彰式 H8.3.12 於 茨城県公館

つくば日中協会歴代役員一覧

(五十音順、在任年度)

名誉会長（つくば市長）

市原 健一 (平成17年 ～ 現在)
木村 操 (平成5年 ～ 平成8年)
藤澤 順一 (平成9年 ～ 平成16年)

顧問

稲葉 勝行 (平成5年 ～ 平成6年)
兼平 英雄 (平成7年 ～ 平成20年)
神林 章夫 (平成7年 ～ 平成8年)

会 長

不破 正宏 (平成5年 ～ 現在)

幹 事 長

王 学論 (平成9年 ～ 現在)
大庭 治夫 (平成5年)
千葉 淳治 (平成6年)
杜 明遠 (平成7年 ～ 平成8年)

事務局長

川久保 忠通 (平成14年 ～ 現在)
戸田 雄三 (平成7年 ～ 平成13年)

幹事

飯田 茂 (平成24年 ～ 現在)
遠藤 誉 (平成5年 ～ 平成13年)
王 学論 (平成5年 ～ 平成8年)
大島 宣雄 (平成24年 ～ 現在)
大関 香 (平成13年 ～ 平成19年)
金山 悦子 (平成7年 ～ 平成8年)

刈谷 由紀子 (平成8年 ～ 平成20年)
川村 路子 (平成18年 ～ 現在)
川鍋 芳郎 (平成8年 ～ 平成13年)
鈴木 貞男 (平成5年 ～ 平成23年)
石 敏俊 (平成8年 ～ 平成13年)
張 勇兵 (平成18年)
戸田 雄三 (平成5年 ～ 平成6年)
杜 国慶 (平成9年 ～ 平成23年)
杜 明遠 (平成5年 ～ 平成17年)
唐 莉莉 (平成19年 ～ 現在)
中澤 都子 (平成18年 ～ 平成23年)
中嶋 利雄 (平成8年 ～ 平成23年)
中山 健司 (平成12年)
範 棣 (平成13年 ～ 平成17年)
冷岡 倍華 (平成8年 ～ 現在)
不破 睦子 (平成19年 ～ 現在)
宮島 利博 (平成19年 ～ 現在)
李 建華 (平成9年 ～ 平成13年)
陸 巖 (平成18年 ～ 現在)

監事

伊藤 朗 (平成5年 ～ 平成9年)
飯田 茂 (平成11年 ～ 平成23年)
杜 明遠 (平成18年 ～ 現在)
唐 艶鴻 (平成5年 ～ 平成9年)
早川 吉則 (平成10年)
増井 慶次郎 (平成24年 ～ 現在)
楊 崢嶸 (平成10年 ～ 平成17年)

つくば日中協会 中国語講座 歴代講師

(講座担当開始順)

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1 唐 莉莉 (平成9年6月 ～ 平成11年3月) | 7 徐 燕 (平成18年4月 ～ 平成20年6月) |
| 2 杜 国慶 (平成9年10月 ～ 平成14年3月) | (野澤 有希) |
| 3 範 棣 (平成13年4月 ～ 平成18年3月) | 8 李 晶 (平成20年7月 ～ 現在) |
| (林 美範) | 9 孟 熙 (平成21年4月 ～ 平成25年8月) |
| 4 楊 豪傑 (平成18年4月 ～ 平成22年3月) | 10 何 银春 (平成25年4月 ～ 現在) |
| 5 呉 勝龍 (平成18年4月 ～ 平成19年3月) | 11 金 佳 (平成25年9月 ～ 現在) |
| 6 廖 帅 (平成18年4月 ～ 現在) | |
| (和泉田 恵美) | |

あ と が き

つくば日中協会設立20周年を迎え、この20年間、ささやかな活動ではありましたが、こうして記念誌を発行するにいたったことに言葉では表せない感動を実感しております。

今日までこの活動を支えて下さった方々からお寄せいただいた原稿を編集していて、本当に多くの皆様に温かく、力強く支えていただいているお陰で活動が続けてこられたのだなあと強く感じさせられ、ここに改めて感謝の意を表し、お礼申し上げる次第です。

20年前、夫が有志の方とこの会を立ち上げた時には、いつまで続くのだろうか、活動のない名ばかりの会になっていくのではないだろうか、と思っていました。しかし、20年間停滞することなく活動が続けてくることができました。今思うことは、あつという間の20年間だったと思う反面、20年というのは、結構な年月が経っていたのだなあということです。何をもってそう感じるのかと申しますと、設立当初の留学生の方々には、小さなお子さんがいらっしゃる方が多く、花見や忘年会の時にはお子さん連れの方が多くいらっしゃいました。そのお子さんたちが、日本の学校教育を受け、今、立派な社会人となり、日本や中国で活躍なさっていることを見聞きするからです。また、私が初めて中国に行ったのは1993年ですが、今在学していらっしゃる留学生の皆さんの中にはそれ以降に生まれた方もいらっしゃる事からです。時代が変わったと言っても過言でなくらい中国は変わってきています。留学生事情も変わってきております。でも、いつの時も、私は、留学生や研究者の方々との交流を通し、中国に関して理解を深め、興味・関心を高めてただけでなく、自分で自分の道を切り開き、たくましくグローバルに生きていらっしゃる留学生の方から物の見方、考え方、生き方までも学ばせて頂いております。

私の好きな食べ物は、一番は、お寿司ですが、その次は、中国人の友人に作っていただく水餃子や焼餅です。衣服は、チャイナ服が大好きです。チャイナ服の襟の形がとても気に入っています。衣・食だけでなく、この20年間、私の生活の中に様々な中国が入ってきています。これからも交流を深め、留学生のみなさんが快適な留学生生活が送れるようなお手伝いができたり、日中友好に少しでも貢献できたりすれば良いなと思っております。

最後になりましたが、お忙しい中筆をとって、心のこもった原稿をお寄せ頂いて、設立20周年記念誌を盛り上げてくださった皆様に厚くお礼申しあげます。皆さま、今後ともよろしく願ひいたします。

2013年11月吉日 不破 睦子

設立20周年記念誌

発行年月日	2013年11月23日
発行者	つくば日中協会
編集者	王学論 川久保忠通 杜明遠 不破睦子
印刷	佐藤印刷株式会社 つくば市二の宮4-4-21 Tel: 029-855-7622
表紙絵	井坂 恵利
